

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 9.30

ファイナンス

ドキュメントリリース日 : 2011年 3月 31日
ソフトウェアリリース日 : 2011年 3月



ご注意

著作権について

(c) Copyright 1994-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

権利の権限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。

これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。

商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。

ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

サードパーティまたはオープンソースのライセンス契約の詳細を確認する場合、またはオープンソースコードを表示する場合は、次のいずれかのパスを使用してください。

- ソフトウェアのインストールCD-ROMの「ThirdParty」ディレクトリ
- ソフトウェアのインストール後にサードパーティまたはオープンソースツールのバイナリファイルが格納されるディレクトリ
- 『Open Source and Third-Party Software License Agreements』ガイドに記載されているコンポーネントのURL

商標について

- Adobe®、Adobe logo®、Acrobat®およびAcrobat Logo®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- Corel®およびCorel logo®は、Corel Corporation or Corel Corporation Limitedの商標または登録商標です。
- Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows NT®、Windows® XP、Windows Mobile®およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
- Oracle®はOracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/> [<http://www.apache.org/>]) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The Apache Software Foundation.All rights reserved.

本製品には、OpenLDAP Foundationにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright ©, The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.All Rights Reserved.OpenLDAP®は、OpenLDAP Foundationの登録商標です。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) での使用を目的にOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSSL Project.All rights reserved.

本製品には、OpenSymphony Group (<http://www.opensymphony.com/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSymphony Group.All rights reserved.

本製品には、RSA Data Securityからライセンス供与されたコードが含まれています。

本製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © Jason Hunter & Brett McLaughlin.All rights reserved.

目次

はじめに	9
ファイナンスモジュールの対象ユーザ	9
ファイナンスモジュールの使用目的	9
このガイドの使用方法	10
1. 金額値	11
通貨	11
為替レート	13
金額フィールドの編集	15
通貨の換算規則	16
換算	17
複数通貨の機能を限定する	18
2. 経費	19
経費の概要	19
予算	24
コストセンタ	31
経費明細	32
コストセンタ間での分割処理	34
3. 固定資産を関連付ける	39
Asset Managerデータベースの資産と固定資産の関連付けについて	39

固定資産の詳細情報	40
4. 税金	43
税金管理が必要な分野	43
概念と実用例	44
税金の計算式を適用する	48
場所に応じて税金を指定する	49
賃貸料の税金の計算方法を指定する	51
調達サイクルで税金を使う	55
5. 総所有コスト (TCO)	59
概要	59
TCO計算を適用する	61
Asset Managerで総所有コスト (TCO) を計算する	65
TCOに含まれる経費明細を生成する	72
6. 経費付替え	77
前提条件	77
概要	77
経費付替えシステムを作成する	78
既存の経費付替え規則から経費付替えシステムを作成する	79
参照コストセンタとコストタイプを必須フィールドにする	79
未解決の経費付替えイベントの処理	80
経費付替え規則のトリガのスケジューリング	80
実用例1—コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え	82
実用例2—経費付替えの分割	89
実用例3—スケジューリングされた経費付替え規則のトリガ実行	92
7. 用語解説	97
経費	97
減価償却	102
税金	103
TCO	104
経費付替え	104
索引	107

図の一覧表

2.1. 予算 - 構成要素	20
2.2. 予算 - 一覧表	21
2.3. 予算センタ - 構造	22
2.4. 予算センタと予算 - 区分	23
2.5. コストセンタの分割処理	35
5.1. TCO計算 - 対象日付	66

表の一覧表

4.1. 税金の自動処理	56
5.1. TCO - 必要なモジュール	61
5.2. [資産の年間総所有コストの平均] ワークフロースキーム	71

はじめに

ファイナンスモジュールの対象ユーザ

AssetManagerのファイナンスモジュールは、主に経費を追跡管理する会社などの組織を対象としています。

このモジュールは主に、以下のユーザにより導入されます。

- 財務の責任者
- 管理者

ファイナンスモジュールの使用目的

ファイナンスモジュールでは次のタスクを実行できます。

- 予算の作成
- 経費のトラッキング
- 固定資産のトラッキング
- 社内振替の管理

上記のタスクを実行すると、次のことができます。

- 資本の支出内容を確認する
- コストを削減する

このガイドの使用方法

金額値の章

通貨と為替レートを使用する

経費の章

予算に応じて経費をトラッキングする

固定資産を関連付けるの章

固定資産をトラッキングする

税金の章

キャッシュフローへ税金を統合する

総所有コスト (TCO) の章

TCOを使用する

経費付替えの章

Asset Managerで経費付替えを自動化する

用語解説の章

ファイナンスモジュール用の用語は専門的です。用語解説ではAsset Managerのキーワードが説明されています。

この用語解説で用語の意味を確認してください。

1 金額値

金額を入力するときに通貨を選択できます。ただし、使用する通貨と通貨間の為替レートをAsset Managerで事前に定義しておく必要があります。

Asset Managerは、複数の通貨で換算額を表示できます。

Asset Managerでは、金額値の複数通貨を管理するために次の機能をサポートしています。

- 通貨の定義
- 為替レートの定義
- 金額フィールドの入力（Asset Managerは自動的に換算額を計算します。）

通貨

通貨は、なるべくAsset Managerの導入時に定義することを推奨します。

ナビゲーションバーの[\[資産ライフサイクル/IT財務管理/通貨/通貨\]](#)リンク経由で、通貨テーブルにアクセスします。

通貨の詳細には、通貨の定義に役立つ3つのフィールドがあり、そこで名前、説明、記号を指定します。

通貨の詳細画面の2つのフィールドでは、金額のフォーマットの規則を定義します。

- **【桁数】**（SQL名：sPrecision）フィールドでは、少数点以下の桁数を定義します。

- **【記号の位置】**（SQL名：seSymbolPos）フィールドでは、通貨記号の位置が金額の前か後かを指定します。

特殊な通貨

通貨は必要な数だけ定義できます。一部の通貨には特殊な規則が適用されます。

- デフォルトの通貨
- 基本通貨
- ユーロ

デフォルトの通貨

通貨を指定しないで金額を入力すると、必ずデフォルトの通貨が適用されます。データベースで定義するデフォルトの通貨。データベースで指定できるデフォルトの通貨は1種類です。指定するには、通貨の詳細画面の**【デフォルトの通貨】**チェックボックス（bDefCur）をオンにします。

AssetManagerの従業員が定義するデフォルトの通貨。従業員ごとにデフォルトの通貨を指定するには、従業員の詳細画面の**【ファイナンス】**タブページにある**【デフォルトの通貨】**（SQL名：DefCurrency）フィールドを使います。この通貨が従業員の新しいデフォルトの通貨になります。

通貨を指定しないで金額を入力すると、ユーザの詳細画面の**【プロフィール】**タブでデフォルトの通貨が定義されていない場合は、データベースレベルで定義されたデフォルトの通貨が適用されます。

基本通貨

換算するときに使う2種類の基本通貨を定義できます。

基本通貨を定義するには、通貨の詳細画面で**【基本通貨1】**（bRefCur1）または**【基本通貨2】**（bRefCur2）チェックボックスをオンにします。



警告:

基本通貨は、なるべくAsset Managerデータベースにデータを保存する前に定義してください。データベースにレコードを保存してから基本通貨を定義しても、そのレコードの金額の換算額は更新されません。

ユーロ

ユーロゾーン内の通貨同士で換算する場合は、ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/IT財務管理/通貨/通貨】**リンクから「ユーロ」通貨を定義する必要があります。

重要項目:

ユーロの [名前] (SQL名 : Name) フィールドの値は「EUR」に設定する必要があります。

為替レート

[資産ライフサイクル/IT財務管理/通貨/為替レート] リンク経由で、為替レートテーブルにアクセスします。

為替レートには、以下の情報が統合されています。

- レートの適用開始日
- 元の通貨
- 換算通貨
- 換算額
- 逆為替レート
- 換算通貨がユーロゾーンに属するかどうか

為替レートを入力する

為替レートは、必要に応じて入力できます。関連情報を記載したファイルをインポートすることもできます。

逆為替レート

通貨Aから通貨Bへの為替レートを入力すると、Asset ManagerはBからAへの逆為替レートを自動的に計算します。

為替レートをわずか（1%以下）に変更した場合は、Asset Managerは逆為替レートを再計算しません。このため、正確を期すためには逆為替レートを調整する必要があります。

為替レートを大幅（1%を上回る）に変更した場合は、Asset Managerは逆為替レートを再計算します。

例

2つの通貨AとBの為替レートは2です。逆為替レートは、Asset Managerが自動的に計算し、0.5になります。

- 逆為替レートをわずか（1%以下）に変更した場合の例
逆為替レート = 0.505
為替レートは変更されません。
- 逆為替レートを大幅（1%を上回る）に変更した場合の例

逆為替レート = 0.51

為替レートは次のように再計算されます。

AからBへの為替レート = 1.960784

ユーロゾーンの場合

1999年1月1日のユーロゾーンの導入は、為替レートに多大な影響を及ぼしています。ユーロゾーン内では次の為替レートのみが承認されます。

- ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レート

Asset Managerでは、ユーロゾーン内の通貨に有効な為替レートの特異性を管理できます。為替レートの詳細画面の【ユーロゾーンに含める】

(bInEuroZone) チェックボックスをオンにすると、AssetManagerでは自動的に次のように処理されます。

- 【元の通貨】 (SQL名: SrcCurrency) フィールドには「EUR (ユーロ)」と表示されます。これは変更できません。
- 【換算通貨】 (SQL名: TargetCurrency) にはユーロゾーン内の通貨しか入力できなくなります。
- ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートを入力できます。逆為替レートは入力できません。

重要項目:

ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン内の通貨からユーロへの為替レートは無効になります。ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートのみが使用されます。

- ユーロゾーン外の通貨とユーロとの為替レートおよび逆為替レート

重要項目:

ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン外の通貨とユーロゾーン内の通貨 (ユーロ以外) との為替レートは無効になります。

- ユーロゾーン外の通貨間の為替レート

推奨事項


2つの通貨の為替レートを容易に算出し、換算に使う値を容易に決定するために、2つの通貨AとBの為替レートは常に同じ方向で入力することをお奨めします。

金額フィールドの編集

金額フィールドの例：[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストトラッキング/経費明細] リンク、経費明細の詳細画面、[貸方] (mCredit) フィールド。

金額と通貨を入力する

Windowsクライアント

- 1 金額フィールドの編集ゾーンの内側にカーソルを置きます。
- 2 金額を入力する場合は、金額の数値とその金額に対応する通貨を入力します。金額フィールドの  をクリックして通貨を選択します。



注意:

通貨を指定しない場合は、デフォルトの通貨が適用されます。



ヒント:

[オブジェクトの設定] 状況依存メニューを選択すると、各金額フィールドごとにデフォルトの金額と通貨を指定できます。

金額を入力する専用のコントロールを使うことができます。このコントロールは、通貨の詳細画面で定義したフォーマットによって変わります。

金額の右の矢印またはキーボードの矢印キーを使って、カーソルを置いているフィールドの数値を増減できます。

Webクライアント

- 1 金額フィールドの編集ゾーンの内側にカーソルを置きます。
- 2 金額を入力し、金額の右側のドロップダウンリストから通貨を選択します。



注意:

通貨を指定しない場合は、デフォルトの通貨が適用されます。

[換算通貨] ポップアップメニュー



警告:

この機能は、Windowsクライアントでのみ使用できます。

ある通貨で入力した金額を別の通貨に換算することができます。手順は次のとおりです。

- 1 金額フィールドでマウスの右ボタンをクリックします。
- 2 ポップアップメニューから、**【換算通貨】**を選択します。
- 3 リストから適切な換算通貨を選択します。
- 4 金額が換算され、選択した換算通貨で表示されます。

計算方法は、換算方法と同様です。換算日は、金額を換算する日付です。為替レートはAsset Managerが自動的に選択します。

詳細：▶ [通貨の換算規則 \[P. 16\]](#)

金額フィールド



警告:

この機能は、Windowsクライアントでのみ使用できます。

- SQL名「mXXX」の金額フィールドは特定のウィンドウ内に表示され、入力された金額を保存します。
金額フィールドには、次の4つの従属フィールドがあります。
- SQL名「XXXcur」のフィールドは、金額の通貨を含みます (☑をクリックします)。
- SQL名「mXXXRef1」と「mXXXRef2」の2つのフィールドは、2つの基本通貨で換算額を保存します (☑をクリックします)。
- SQL名「dtXXXCv」のフィールドは、換算日を保存します (☑をクリックします)。

例：資産の購入価格が10000円、換算日が2011年10月1日の場合は、次のようになります。

- **[mPrice]** フィールドには10000が入ります。
- **[PriceCur]** フィールドにはJPYが入ります。
- **[mPriceRef1]** と **[mPriceRef2]** フィールドには換算額が入ります。
- **[dtPriceCv]** フィールドには2011/10/01が入ります。

通貨の換算規則

ある通貨で表された金額を別の通貨に換算するには、換算時に適用される為替レートが必要になります。

ここでは、換算の規則と為替レートについて説明します。換算規則は、換算する通貨によって異なります。

指定した1組の通貨（AとB）間の適切な為替レートを選択するために、Asset Managerでは換算日と次の規則を使います。

- Aが元の通貨、Bが換算通貨（結果）の場合、換算日付けの為替レートが定義されている場合は、Asset Managerはこのレートを使います。
- Bが元の通貨、Aが換算通貨の為替レートが定義されている場合は、Asset Managerはこのレートに対して定義された逆為替レートを使います。逆為替レートは、BからAへの為替レートの $[1 A = x B]$ フィールドに表示されます。
- 上のいずれにも該当しない場合は、換算されません。

例：

- 通貨Aから通貨Bへの2011年7月1日現在の為替レートは、“ $1 A = 6 B$ ”です。
- 通貨Bから通貨Aへの2011年8月1日現在の為替レートは、“ $1 B = 0.2 A$ ”です。
- 2011年9月1日現在で100Aを通貨Bに換算する場合、Asset Managerでは為替レート“ $1 A = 6 B$ ”が適用され、金額は600Bになります。

換算

このセクションの内容は、次のとおりです。

- 概要
- 換算日
- 更新

概要

金額を入力すると、Asset Managerは基本通貨の金額に自動的に換算します。換算額は、次から自動的に計算されます。


- 換算日
- 入力した金額の通貨単位と基本通貨の換算日現在の為替レート

換算額を表示する



警告:

この機能は、Windowsクライアントでのみ使用できます。

金額フィールドの右の  アイコンをクリックすると、換算日、金額、為替レートと換算額を示す画面が表示されます。

換算日

換算日によって為替レートが決まります。

換算日はSQL名「dtxxxCv」のフィールドに保存され、各金額に関連付けられます。

デフォルトの換算日に関連付けると、金額を定義する時点でこのフィールドに自動的にデフォルト値が入力されます。この結果、資産の購入価格の換算日を確実にこの資産の購入日にするなどの処理が可能になります。

デフォルトでは、金額の換算日は現在の日付になります。金額に関連付けられる換算日のデフォルト値は、Asset Manager Application Designerを使って定義します。

金額を更新する

換算額を変更し、その後金額を変更すると、変更した換算額は失われます。

以下の場合、Asset Managerはデータベースに格納された換算額を更新します。

- 為替レートが変更された場合
- 換算日がスクリプトで計算され、スクリプトに使うフィールド値が変更された場合

AssetManagerには、以上の変更を自動的に換算額に反映する機能はありません。自動的に反映させるには、ワークフロースキームを定義します。

複数通貨の機能を限定する

使用できる複数通貨の機能が、すべては必要でない場合、次の2つの方法があります。

- 通貨を定義しない方法。この場合は次のようになります。
 - 金額には指定された通貨単位が表示されない。
 - 金額のフォーマットは、Windowsのコントロールパネル（例えば、Windows XPの場合：[地域と言語のオプション] ツールの [地域オプション] タブ）で定義されているフォーマットが適用される。金額を入力する専用のコントロールも変更される。
 - データベースでは、金額フィールドに関連する4つのフィールド（通貨、2つの換算額、換算日）が空のままになる。
- 基本通貨を定義しないで通貨を作成する方法。この場合は次のようになります。
 - 通貨ごとに異なるフォーマットの規則を定義できます。
 - データベースレベルでは、金額情報用の5つのフィールドのうち、金額と通貨のフィールドだけに値が入り、他の3つのフィールド（2つの換算額と換算日のフィールド）は空になります。

2 経費

この章では、Asset Managerで経費を管理する方法について説明します。

経費の概要

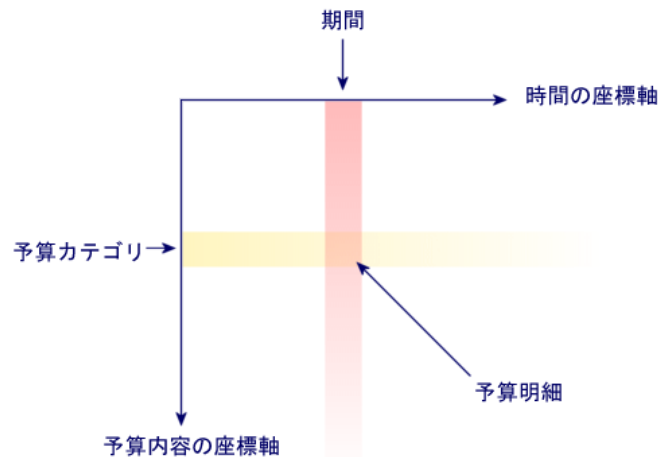
このセクションでは、経費管理に関連する概念を説明します。

予算

予算は、各コストタイプごとに一定期間（一般的には翌年）で予定される収入と支出を示します。予算は、以下の2つの座標軸から成り立っています。

- 1 時間の座標軸。会社のトラッキングやレポートの規則に応じて区切られます（半年、四半期、1月ごとなど）。
- 2 コスト座標軸。会社が特定している様々な予算カテゴリ（または予算科目）から構成されています。

図 2.1. 予算 - 構成要素



注意:

1つの予算は、それぞれ以下の要素を含むグリッドとなります。

- 列は期間を表します（第1四半期、第2四半期、など）。
- 行は予算カテゴリを表します（例：社内出張、社外出張、コンサルティング、など）。
- セルは予算明細に対応する金額を表します（例：第1四半期の出張用の予算額は100万円）。予算明細の金額は引当金と呼ばれており、支給予定の金額を指します。

必要に応じて次のような概念も導入できます。

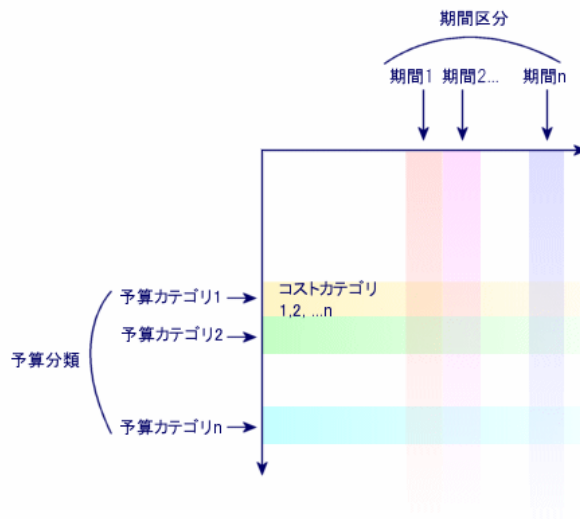
- 予算カテゴリの座標軸上で
 - 予算カテゴリは1つまたは複数のコストタイプから構成されています。上記の例では、予算カテゴリ「社内出張」には、「国内用」、「海外用」などのコストタイプがあります。
 - 予算分類は、複数の予算カテゴリから構成されています。例えば、予算分類「出張」には、「社内出張」、「社外出張」などの予算カテゴリがあります。

 **注意:**

予算分類が、予算カテゴリを介して全部のコストタイプをまとめるようにすることをお勧めします。予算分類に入らないコストカテゴリがあると、予定された収入や支出の一部が予算内に含まれなくなります。Asset Managerは、全コストカテゴリが予算分類に含まれているかどうかを点検しません。

- 期間の座標軸上
 - 期間区分は、会社が決めた期間（四半期など）をまとめたものです。
 - 会計年度は、順に複数の期間区分をまとめたものです。一般的に1年間（丸1年また事業年度）に相当します。

図 2.2. 予算 - 一覧表



企業では、予算は1年間の会計年度ごとに定義されるのが一般的です。しかし、予算センタのように、1年間の予算より長く継続するものもあります。予算センタは、企業内の特定のエンティティの年間予算を格納する永続的な構造です。例えば、企業内の各部署に対して予算センタを設定することもできます。

図 2.3. 予算センタ - 構造

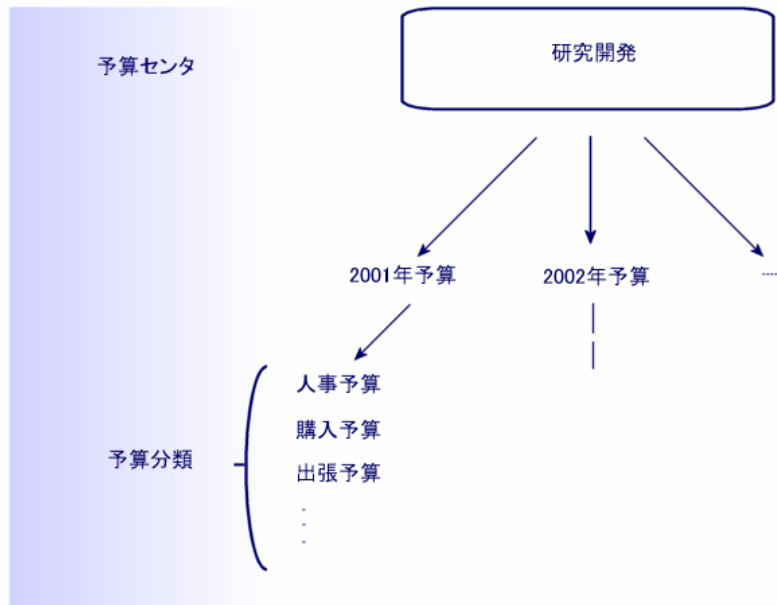
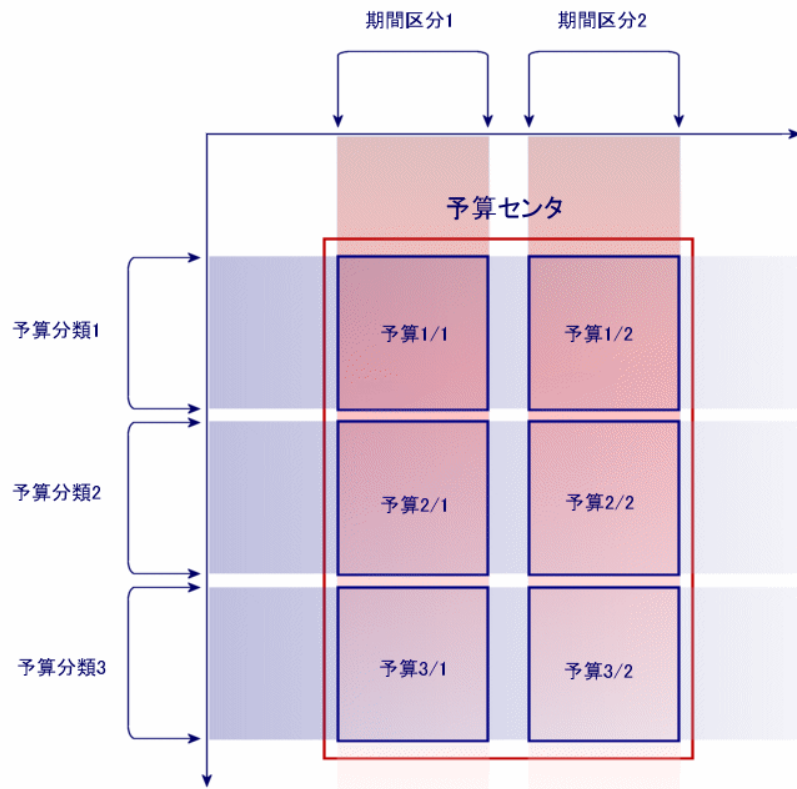


図 2.4. 予算センタと予算 - 区分



予算センタの概念はコストセンタに比較することができます。予算センタが統括する期間は未定ですが、予算センタに含まれる要素は、それぞれ一定の期間に直接関連付けられています。

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されます。

予算管理を実行する場合、各コストセンタは予算センタに属する必要があります。

予算

このセクションでは、Asset Managerでの予算の使用方法を説明します。

インプリメンテーション方法

Asset Managerで予算システムを導入する方法は、予算の作成、表示、および変更ができるウィザードに基づきます。

- **【予算分類を作成】** (sysFinBudgetClassCreate) ウィザードでは、新しい予算分類を作成できます。
- **【期間区分を作成】** (sysFinBudgetPeriodCreate) では、次のことができます。
 - 既存の会計年度の期間区分を作成する。
 - 新しい会計年度とその期間区分を作成する。
- **【予算を作成】** (sysFinBudgetCreate) ウィザードでは、実際の予算を作成できます。



注意:

以下の2つのウィザードは連鎖しています。

- **【予算を更新...】** (sysFinAllowanceUpdate) ウィザードでは、次の操作によって予算明細を変更できます。
 - 引当金額を変更する。
 - 引当金を平均的に配布する。
 - 引当金をある予算から次の予算に移動する。
 - 新しいコストコードを入力する。
- **【予算管理を表示...】** (sysFinBudgetTracking) ウィザードには、入力された予算明細の要約と、実行された引当金のグラフが表示されます。

以下の実用例では、ウィザードの使用方法について説明します。

各企業の特性に応じて、別の方法を取り、ウィザードを使用せずに予算を作成することもできます。この場合、次の操作を行ってください。

- 予算管理用の全構造要素を作成する必要があります。期間の座標軸の要素（会計年度、期間区分、期間）と、予算内容の座標軸の要素（予算分類、予算カテゴリ、コストタイプ）を作成します。
- 各予算分類には、定義されたコストタイプ全てが含まれていなければなりません。

実用例

この例では、ソフトウェアのデザインを手がける会社Softwareが、会社の研究開発部にAsset Managerによる予算管理を導入する方法を説明します。この会社での規則に従って、期間区分を以下の様に指定します。

- 1期間は1四半期に当たります。
- 期間区分は1年に当たります。
- 会計年度は現在の会計年度とします。

この例では、以下の状況に従って出張の予算を作成します。

- 日本国内の出張と海外へのお出張がある。
- 日本国内では、大阪と札幌へのお出張がある。
海外では、パリとロンドンへのお出張がある。

この状況に基づいて、次の情報を入力します。

- 基本のコストタイプ：大阪用、札幌用、パリ用、ロンドン用
- 予算カテゴリ：国内出張（大阪出張と札幌出張を含みます）、海外出張（パリ出張とロンドン出張を含みます）。
- 予算分類は「出張」になります。

上記を作成した現時点で、Asset Managerでの予算システムの導入が可能になります。

コストセンタを作成する

- 1 コストセンタを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストトラッキング/コストセンタ]リンク）。
- 2 [新規作成]をクリックし、[部署]フィールドに「その他」と入力します。
- 3 レコードを作成します（[作成]ボタン）。

コストタイプを作成する

- 1 コストタイプを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストトラッキング/コストタイプ]リンク）。
- 2 4つの特定コストタイプ、「大阪出張」、「札幌出張」、「パリ出張」、および「ロンドン出張」を作成します。
- 3 ウィンドウを閉じます。

予算センタを作成する

- 1 予算センタを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/IT財務管理/予算/予算センタ]リンク）。
- 2 [新規作成]をクリックし、[名前]フィールドに「研究開発部」と入力します。
- 3 レコードを作成します（[作成]ボタン）。

- 4 **【コストセンタ】** タブで、**+** (Windowsクライアント) または **【追加】** (Webクライアント) ボタンをクリックし、**【その他】** コストセンタを選択して、**【選択】** (Windowsクライアント) または **【追加】** (Webクライアント) をクリックします。
- 5 Windowsクライアント：**【変更】** をクリックして、変更を保存します。

予算分類を作成する

- 1 **【研究開発部】** 予算センタの詳細を表示します (ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/IT財務管理/予算/予算センタ】** リンク)。
- 2 ウィザードを起動するには、Windowsクライアントで **【予算】** ボタンをクリックするか、Webクライアントで **【アクション...】** ドロップダウンリストから **【予算】** を選択します。
- 3 **【予算を作成...】** (sysFinBudgetCreateLauncher) ウィザードで以下の表に示す値を入力します。

フィールドまたはリンク	値
【予算を作成】 ページ	3: 自動的な分類と期間区分と予算を作成を選択します。
【OK】 をクリックします。	
【予算分類を作成】 ページ	
名前	出張
新規カテゴリ	国内出張
【追加】 をクリックします。	
新規カテゴリ	海外出張
【追加】 をクリックします。	
【次へ】 をクリックします。	
【予算分類を作成】 ページ	
予算カテゴリ	【国内出張】 を選択します
コストタイプ	【大阪出張】 を選択します
【関連付け】 をクリックします。	
予算カテゴリ	【国内出張】 を選択します
コストタイプ	【札幌出張】 を選択します
【関連付け】 をクリックします。	
予算カテゴリ	【海外出張】 を選択します
コストタイプ	【パリ出張】 を選択します
【関連付け】 をクリックします。	
予算カテゴリ	【海外出張】 を選択します
コストタイプ	【ロンドン出張】 を選択します
【関連付け】 をクリックします。	
【完了】 をクリックします。	

- 4 **【OK】** をクリックして、ウィザードを終了します。これで、予算作成の次の手順、「**期間区分の作成**」に対応するウィザードが起動されます。

期間区分を作成する

- 1 **【期間区分を作成】** (sysFinBudgetPeriodCreate) に対応するウィザードで以下の表に示す値を入力します。

フィールドまたはリンク	値
【期間区分を作成】 ページ	注意: [既存の会計年度の期間区分を作成] を選択した場合、[次へ] をクリックすると、「会計年度を選択」画面が表示されます。 注意: [予算を作成] を選択すると、[次へ] ボタンが無効になり、[完了] ボタンで作成プロセスの最後の手順、「実際の予算の作成」に対応する新しいウィザードにアクセスできます。 [新規会計年度の作成] を選択します。
[次へ] をクリックします。	
【新規会計年度の作成】 ページ	
会計年度	Fiscal Year 2011
回数	年4回
期間開始日	2011年1月1日
[次へ] をクリックします。	
[完了] をクリックします。	

- 2 **【OK】** をクリックして、ウィザードを終了します。これで、予算作成の次の手順、「**実際の予算の作成**」に対応するウィザードが起動されます。

予算の作成

- 1 **【予算を作成】** (sysFinBudgetCreate) ウィザードで以下の表に示す値を入力します。

フィールドまたはリンク	値
【予算を作成】 ページ	
名前	職務出張
予算センタ	研究開発部
予算分類	出張
期間区分	Fiscal Year 2011 年4回
[完了] をクリックします。	

- 2 **【OK】** をクリックして、ウィザードを終了します。
- 3 これで予算が作成されました。次に、予算明細（各予算科目と各期間用に予測される収入と支出の金額）を入力できます。

予算明細を作成する

- 1 追加した**【職務出張】** 予算の詳細を表示します（**【資産ライフサイクル/IT財務管理/予算/予算】** リンク）。

【予算明細を更新...】 (sysFinAllowanceUpdate) ウィザードを起動するには、Windowsクライアントで**【更新】** ボタンをクリックするか、Webクライアントで**【アクション...】** ドロップダウンリストから**【更新】** を選択します。このウィザードでは、既存の予算明細の引当金額を変更できます。

- 2 ウィザードが起動されると、最初の画面に予算に関する情報（名前、予算センタ、予算分類、および期間区分）が表示されます。

次の4つのチェックボックスを使用すると、引当金の変更のために実行する異なる操作を選択できます。

- 引当金額を変更
- 平均的に配布
- 既存予算から引当金を移動（このボックスをオンにした場合、次の画面でソース予算の指定が求められます）
- コストコードを入力

実行しない操作のボックスはオフにします。

- 3 この例では、**【引当金額を変更】** および **【平均的に配布】** をオンにし、他のすべてのオプションをオフにします。

- 4 **【次へ】** をクリックします。

- 5 最初に、総額18,000ユーロの予算を **【職務出張：海外出張/四半期1】**、**【職務出張：海外出張/四半期3】**、および **【職務出張：国内出張/四半期2】** 予算に配布します。

- 6 これを行うには、貸方に計上する明細を選択します（複数選択するには、**【Ctrl】** キーを押します）。

【割り当て金を配布】 明細の数値フィールドで、18,000ユーロを指定します。

【割り当て金を配布】 ボタンをクリックします。

総額18,000ユーロが選択した明細の数で分割されました。この配布金額が各明細の初期金額に追加されます。また、**【新しい金額】** 列にも表示されます。選択した3つの明細の新しい金額が6,000ユーロであることがわかります。

- 7 同じ操作を実行して、20,000ユーロの引当金を **【職務出張：海外出張/四半期2】**、**【職務出張：海外出張/四半期4】**、**【職務出張：国内出張/四半期1】**、および **【職務出張：国内出張/四半期4】** 予算に配布します。

- 8 **【職務出張：国内出張/四半期3】** 予算明細の **【新しい金額】** 列に、手動で3,000ユーロの金額を入力します。

- 9 次に、**【職務出張：海外出張/四半期1】** および **【職務出張：国内出張/四半期2】** 予算を10%増やします。

- 10 これを行うには、貸方に記入する明細を選択します。

【割合を適用】 明細の数値フィールドに、「**10**」と入力します。

【割合を適用】 ボタンをクリックします。

割合を引き上げた結果は、【新しい金額】列に指定されます。選択した2つの明細の新しい金額が6,600ユーロであることが分かります。

 **注意:**

【操作をリセット】 ボタンを使用すると、すべての更新操作を取り消し、予算をデータベースに現在保存されている状態に復元できます。

- 11 【次へ】 をクリックして、変更の要約を表示します。変更をデータベースに保存する前に、新しい金額が表示されているこの画面を慎重に確認してください。
- 12 【完了】 をクリックしてデータベースを更新し、【OK】 をクリックしてウィザードを終了します。

予算を表示する

この手順では、Windowsクライアントで予算画面の【トラッキング】 をクリックするか、Webクライアントで【アクション...】 ドロップダウンリストから【トラッキング】 を選択して、予算をプレビューできます。【予算管理を表示...】 (sysFinBudgetTracking) ウィザードには、入力された予算明細の要約と、実行された引当金のグラフが表示されます。

予算のトラッキング

Asset Managerに予算構造が設定されると、予算枠内で支払われた経費のトラッキングを実行できます。次の処理機能が使用されます：

- 理論上では、全ての出費は経費明細として作成されます。

 **注意:**

調達サイクルや経費付替えなどのAsset Managerの自動処理機能では、経費の作成、変更または分割が実行されます。詳細については、調達サイクルを説明するガイド（『調達』『契約』）、またはこのガイドの「[経費明細 \[P. 32\]](#)」のセクションを参照してください。

- 経費明細には以下の内容が含まれます。
 - 金額
 - 支出日。この支出日から経費の属する「期間」が分かります。
 - コストタイプ。ここから経費の「予算カテゴリ」が分かります。
 - 経費の配賦先コストセンタ
 - 経費のステータス（「見積済」、「発生済」、「発生済および変更不可」）これらの情報により、経費が関連付けられている予算や予算明細が分かります。

- Windowsクライアント、またはWebクライアントの [アクション] ドロップダウンリストで、予算の詳細画面の [トラッキング] をクリックして、ウィザードを表示します。このウィザードでは、経費と予算の引当金との関係を要約するグラフが生成されます。

トラッキングの例

前期の例に従って3つの経費明細を手動で作成します。

- 1 経費明細を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/コストトラッキング/経費明細] リンク)。
- 2 以下の情報を入力して3つの経費明細を作成します。

フィールド	経費明細1	経費明細2	経費明細3
タイトル	出張01	出張02	出張03
借方	4000	2000	950
支出日	2011年10月31日	2011年6月25日	2011年1月12日
コストセンタ	その他	その他	その他
コストタイプ	大阪出張	ロンドン出張	パリ出張
ステータス	発生済および変更不可	発生済	見積済

- 3 [職務出張] 予算の詳細画面に戻り (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/予算/予算] リンク)、 [トラッキング] ボタンをクリックします。

ウィザードは予測された経費と実際の経費をグラフで表示します。

予算の承認を自動化する

ここでは、Asset Managerを使用した予算の承認を自動化する方法と、自動化の設定方法について説明します。

予算モジュールの専門分野データには、**予算の承認(BST_FINANCEBUDGETVAL)** という名前のワークフロースキームが含まれています。

このワークフロースキームは、自動化された予算承認サイクルを導入するために使用されます。

以下に、このスキームの特徴を示します。

ワークフロースキームをトリガするイベント

次のイベントが発生すると、ワークフロースキームが起動します。

- ステータスが [承認待ち] に変わります

ワークフローの実行を継続するために必要な条件

ワークフロースキームは、次のようにフィールドに値が設定されている場合に実行を継続します。

テーブル名	フィールドまたはリンクの名前	フィールドの値
予算 (amBudget)	ステータス (seStatus)	承認待ち

ワークフロースキームの起動と実行に
Asset Manager
Automated Process
Managerが必要か？

ワークフロースキームの概要説明	<ol style="list-style-type: none">1 ワークフロースキームでは、予算の承認依頼が作成されます。この承認依頼は、すでに割り当てられている場合はワークフローアクティビティの書式で予算責任者に割り当てられ、割り当てられていない場合は予算グループに直接割り当てられます。2 承認依頼が受け入れられた場合、予算のステータスは【承認済】になります。3 承認依頼が拒否された場合、予算のステータスは【拒否】になります。4 承認依頼が受け入れられた場合、予算のステータスは【準備中】になります。5 いずれの場合も、依頼をトラッキングするために、承認タスクのコメントは予算のコメントにコピーされます。
-----------------	--

承認プロセスに関わる従業員の指定

契約の依頼を依頼する前に、次の設定を行ってください。

- 1 グループを表示します（ナビゲーションバーの**【組織管理／処理／従業員グループ】**リンク）。
- 2 **【予算】**グループを表示します。
- 3 少なくとも次のフィールドとリンクには入力してください。

フィールドまたはリンク	コメント
責任者 (Supervisor)	ワークフローアクティビティが 【予算の承認依頼】 ワークフロースキームで作成されると、このリンクで指定されたユーザは通知メッセージを受け取ります。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
【明細】 タブ メンバー	グループメンバーは、 【予算の承認】 ワークフローによって作成されたドキュメント承認依頼のワークフローアクティビティを閲覧します。

コストセンタ

各コストセンタは、自身の経費明細の棚卸を管理します。コストセンタという用語は広義に解釈してください。

Asset Managerのコストセンタは、経費（キャッシュフロー）をトラッキングするためのもので、会計用語に厳密に準拠するわけではありません。

コストセンタを使って、資産の取得とメンテナンス、従業員の研修、メンテナンスの費用、保険、リース契約などに関連するさまざまな経費を分類できます。


 **注意:**

各コストセンタにはコードが付いており、他のアプリケーションのデータベースとのインポートまたはエクスポート時に、識別キーの役割を果たします。

経費明細

経費明細のリストを表示するには、ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル / IT財務管理 / コストトラッキング / 経費明細]** リンクを選択します。また、コストセンタの詳細画面の **[経費]** タブには、コストセンタに配賦された経費明細のリストが表示されます。

 **ヒント:**

Windowsクライアントを使用している場合は、リストの左下にある  ボタンをクリックすると、リスト内のすべての経費明細の借方および貸方の総額を計算できます。

リース契約の新規賃貸料や、新規の分割処理などが発生すると、Asset Manager Automated Process Manager モニタプログラムは自動的に経費明細を作成します。

 **重要項目:**


経費明細が自動的に作成された場合、**[ステータス]** (SQL名: seStatus) フィールドは **[発生済および変更不可]** にはなりません。これ以外のステータスの明細を検索すれば、自動的に作成され、まだ有効になっていない経費明細を確認できます。

次の操作を実行する場合には、これにより発生するコスト（経費）を指定する必要があります。

- 資産の取得
- 作業指示、メンテナンス作業
- 契約

経費明細を、コストを伴う構成要素（資産、契約など）に関連付ける手順は次のとおりです。

- 1 資産や契約などの詳細画面を表示します。

- 2 【コスト】タブを選択します。
- 3 経費明細を追加します（Windowsクライアントでは  ボタン、Webクライアントでは【追加】ボタン）。

経費明細の詳細画面

経費明細の【全般】タブには、次の情報が表示されます。

- 【借方】（SQL名：mDebit）および【貸方】（SQL名：mCredit）フィールド。
【貸方】に金額を入力すると、【借方】は0になり、また【借方】に金額を入力すると、【貸方】は0になります。
- 【ステータス】（SQL名：seStatus）。経費明細には、【発生済】、【発生済および変更不可】、【見積済】のステータスがあります。
経費明細が自動的に作成された場合、このフィールドは【発生済および変更不可】には設定されません。これにより、自動的に作成された経費明細を管理し、特定の明細のみの作成を有効にすることができます。
【コストセンタ】（SQL名：CostCenter）リンクは、コストセンタに経費明細を割り当てます。

経費明細を作成する

経費明細は、次のようにさまざまな方法で作成できます。

経費明細のリストで【新規作成】をクリックすると、新しい経費明細を手動で作成できます。この場合、この経費明細の原因となる操作（資産の購入、契約など）を指定する必要があります。

自動作成

経費を伴うイベントが発生すると、経費明細が経費明細のテーブルに自動的に作成されます。

経費明細の金額は、指定された情報から自動的に計算されます。

経費明細の【ステータス】は、【見積済】または【発生済】に設定されます。

Asset Manager Automated Process Managerによる自動作成

Asset Manager Automated Process Managerは、次の支払に関連する経費明細を自動的に作成します。

- 契約または資産に関する定期的な賃貸料の支払
- 契約の資金繰りのために使用したローンの返済
- 経費明細の分割
- 経費の付替え

経費明細の金額は、契約と資産の詳細画面の賃貸料およびローンのサブタブページに指定されている情報に基づいて自動的に計算されます。

Asset Manager Automated Process Managerは、分割処理規則と経費付替え規則に応じて、他のコストセンタの経費明細、分割明細、および付替え明細を自動的に生成します。

経費明細を変更する

経費明細の作成後に経費に関する情報の一部を変更し、経費明細がまだ有効化されていない（経費明細の詳細画面の [ステータス]（SQL名：seStatus）フィールドが [発生済および変更不可] に設定されていない）場合は、この変更を適用できます。経費明細が有効になっている場合は、レコードを変更できません。

作成後に経費明細を変更しても、経費明細の発生元のレコード（契約など）の詳細情報は変更されません。

経費明細を分割した場合の影響

- 経費明細「L」が、別の経費明細の分割処理によって発生した場合、経費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細に影響はありません。
 - 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細



警告:

コストセンタが削除された場合などにAsset Manager Automated Process Managerにより経費明細が自動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

- 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも変更が加えられます。

コストセンタ間での分割処理

ここでは、Asset Managerによるコストセンタ間での分割処理の方法を説明します。

分割処理の概要

1つの経費明細を、複数のコストセンタで分担できます。

経費明細を分割するには、その明細を1つの中間コストセンタに割り当てます。この中間コストセンタは、分割した経費の割り当て先のコストセンタのリストと、各コストセンタに割り当てられる経費のパーセンテージを定義します。

指定したコストセンタで段階的に分割処理を実行できます。例えば、コストセンタC1をC2とC3に分割し、C3をさらにC4とC5に分割できます。

分割処理後のコストセンタを区別するために、分割する前の元のコストセンタは「配賦元コストセンタ」、分割後の各コストセンタは「配賦先コストセンタ」と表示されます。

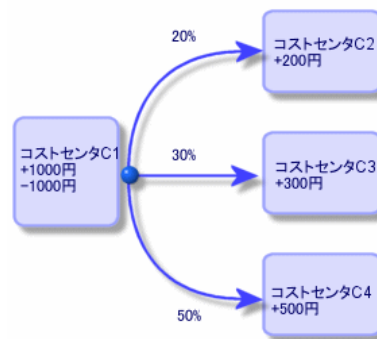
経費明細は、Asset Manager Automated Process Managerによって分割されず。

Asset Manager Automated Process Managerは、分割対象の経費明細を検索し、分割を行います。経費明細をモニタする頻度は、Asset Manager Automated Process Managerオプションで定義します。

経費明細は、次のようにして分割されます。

- 分割前のコストセンタ内に分割された経費明細が作成されます。
- 分割のパーセンテージに従って、分割後のコストセンタ内に経費明細が作成されます。

図 2.5. コストセンタの分割処理



経費明細の分割を自動化する

経費明細を正しく分割するには、次の手順に従います。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 [ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。
- 4 [コストセンタの経費を分割する] モジュール (CostCenter) を選択します。
- 5 [有効] チェックボックスをオンにします。

- 6 『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章、「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する/コストセンタの経費を分割する（CostCenter）」のセクションに記載された手順に従って、「コストセンタの経費を分割する」モジュールのオプションに入力します。
- 7 [閉じる] をクリックします。
- 8 Asset Manager Automated Process Managerによって、経費明細が自動的に分割されます。

分割処理の詳細設定と計算

コストセンタの詳細画面の[分割処理] タブページに、コストセンタに関連する分割の説明があります。

各配賦先コストセンタに分割処理明細を指定します。

分割処理明細に、分割処理の開始日、終了日、分割のパーセンテージを指定します。

注意事項

- 分割の開始日は分割期間に入りますが、終了日は入りません。例えば、開始日が2011年1月1日で終了日が2011年4月1日の場合は、分割は2011年1月1日から2011年3月31日まで有効です。
- 指定日時点でのコストセンタの経費のパーセンテージの合計が100±0.1%になるように分割しなければなりません。
- 配賦元コストセンタを、配賦先コストセンタに関連付けられた分割に含めることはできません。

経費明細の計算

- 分割のパーセンテージを適用してから、経費の小数点以下第二位を四捨五入します。
- 丸め誤差は最初の経費明細で相殺されます。

経費明細の金額を変更する場合の注意

- 経費明細「L」が、別の経費明細の分割処理によって発生した場合、経費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細に影響はありません。
 - 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細



警告:

コストセンタが削除された場合などにAsset Manager Automated Process Managerにより経費明細が自動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

- 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも変更が加えられます。

コストセンタを削除する



警告:

このセクションはWindowsクライアントにのみ適用されます。

[オプション] ウィンドウ ([編集/オプション]、[編集] グループ) で [拡張削除の許可] が [はい] に設定されている場合は、経費明細があるコストセンタを削除できます。これを行うには、3つの方法があります。

リンクしているすべてのレコードを削除する

コストセンタが削除されると、Asset Managerは次の明細を削除します。

- 削除されたコストセンタの経費明細
- 削除されたコストセンタに関連する分割処理で発生した経費明細



注意:

削除されたコストセンタで分割処理が行われ、別の経費明細が発生した場合は、Asset Managerが分割前の元の経費明細の [分割処理のステータス] (SQL名: seSplitStatus) フィールドを「未分割」に変更します。

このようにステータスは「未分割」に戻っても、分割により発生した経費明細がまだリンクされている経費明細を検出すると、リンクしている経費明細はすべて削除されます。それと同時にAsset Manager Automated Process Managerは分割前の元の経費明細も削除します。

次に、Asset Manager Automated Process Managerは未分割のステータスに戻った経費明細を分割し、新しいパラメータに基づいて再計算します。

リンクしているすべてのレコードを切り離す

この場合は次のようになります。

- 削除されたコストセンタの経費明細は、切り離れたコストセンタとは関連がなくなります。
- 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、その経費明細が再分割されます。
- 経費明細が、削除されたコストセンタに関連する分割処理により発生した経費明細の場合は、変更されません。

リンクしているレコードを別のレコードにリンクする

この場合は、削除されたコストセンタに代わるコストセンタXを選択します。

- 削除されたコストセンタの経費明細をコストセンタXに関連付けます。
- 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、コストセンタXが新しいコストセンタと見なされ、その経費明細が再分割されません。
- 削除されたコストセンタに関連する分割処理によって発生した経費明細は削除され、コストセンタXの経費明細が分割されます。

3 固定資産を関連付ける

警告:

この章は、Windowsクライアントにのみ適用されます。

この章では、Asset Managerデータベースに固定資産を関連付ける方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- 固定資産とAsset Managerデータベースの照合更新について
- 固定資産の詳細情報

固定資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル / IT財務管理 / 減価償却 / 固定資産] リンクを選択します。

Asset Managerデータベースの資産と固定資産の関連付けについて

警告:

このセクションはWindowsクライアントにのみ適用されます。

経理部が、専用の会計ソフトを使って固定資産の詳細情報を管理しています。しかし、処分した資産や未使用の資産の情報を、固定資産のリストに反映させていくことは困難です。会計レコードに処分済の資産が固定資産として残ってしまうことがよくあります。

上記のような会計レコードのファイルを更新するには、物理的に資産を棚卸することが必要です。Asset Managerで資産を棚卸し、その情報を固定資産のリストと関連付けて照合すれば、その相違点を基に会計ファイルを更新することができます。

照合更新がしやすいように、Asset Managerには会計プログラムの固定資産情報を入力するためのテーブルがあります。会計プログラムから固定資産のデータをインポートすると、データベース内の資産情報と関連付けることができます。Asset Managerには、会計プログラムから取得した固定資産データを棚卸資産に手動で関連付けるウィンドウがあります。

Asset Managerでは、次の3つの方法でデータベース内の資産を固定資産に関連付けます。

- 1つの資産を1つの固定資産に関連付ける
- 1つの資産を複数の固定資産に関連付ける（1つの資産で進行中の作業を管理する場合など）
- 1つの固定資産を複数の資産に関連付ける（複数の資産をまとめて管理する場合など）

Asset Managerデータベース内の資産と会計プログラムから取得した固定資産情報とを関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 固定資産の会計ソフトから有効な情報を抽出します（テキストファイルに出力）。
- 2 テキストファイルをAsset Managerの固定資産テーブルにインポートします。
- 3 資産と固定資産を関連付けます。
- 4 「関連付けなし」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、資産に関連付けられなかった固定資産です。経理部では、必要に応じてこれらの固定資産をリストから削除できます。
- 5 「一部関連付け」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、一部のみ資産に関連付けられた固定資産です。経理部はこれらの固定資産を分解し、関連付けられていない固定資産をリストから削除できます。
- 6 「処分」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、処分された資産にのみ関連付けられる固定資産です。経理部では、これらの固定資産をリストから削除できます。

固定資産の詳細情報



警告:

このセクションはWindowsクライアントにのみ適用されます。




固定資産の詳細画面の情報の多くは、固定資産を管理する外部のソフトウェアアプリケーションからインポートして入力します。

固定資産の詳細画面の上部、および【全般】と【減価償却】タブページのフィールドは、他のAsset Managerテーブルにリンクしていません。

Asset Managerデータベースに固定資産のデータをインポートしてから、詳細情報（必要であれば）を入力します。

 **注意:**

データのインポートについて詳しくは、『管理』ガイドの「データのインポート」の章を参照してください。

- 【全般】タブのフィールドにデータを入力します。必要に応じて、固定資産の会計コード、固定資産の取得日、導入日、レコードの更新日、固定資産の設置場所、数量、単価を入力します。
- 【減価償却】タブページのフィールドに入力します。必要に応じて、固定資産の減価償却のタイプ（会計、技術、年度など）、計算方法（定額、定率、例外など）、減価償却期間を指定します。
- 固定資産の詳細画面の【資産】タブページで、固定資産と資産を関連付けます。、とのボタンをクリックすれば、固定資産に関連する資産の追加、削除、表示、変更を行うことができます。
- 固定資産の詳細画面の上部にある【オプション】（SQL名：seOption）フィールドに入力します。このフィールドには、次の4つの値のいずれかを入力することができます。
 - **関連付けなし**：固定資産に資産が関連付けられていないことを示します。
 - **一部関連付け**：固定資産に最低1件の資産が部分的に関連付けられていることを示します。
 - **関連付け済み**：固定資産と資産が完全に関連付けられていることを示します。
 - **処分**：この固定資産は、固定資産のリストに表示されるべきではないことを示します。これは、固定資産に対応する資産がもう使用されない場合に当てはまります。

 **注意:**

【取得日】（SQL名：AcquDate）フィールドと【導入日】（SQL名：InstallDate）フィールド（固定資産の詳細画面の【全般】タブページ）に注意してください。これらの日付は外部のデータベースからインポートされるため、そのデータ型と保存形式が不明な場合があります。そのため、Asset Managerデータベースにはテキスト形式で保存されます。

4 税金

この章では、Asset Managerで税金を処理する場合のさまざまな計算方法について説明します。

税金には次の種類があります。

- 固定されている税金
- 計算式で算出される税金

税金管理が必要な分野

Asset Managerでは、次の分野で税金機能が使われています。

- 契約賃貸料。契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【ファイナンス】サブタブページで、【税金】（SQL名：TaxFormula）、【税区分】（SQL名：TaxJuris）、【税率】（SQL名：pTaxRate）、【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドに、契約全体の賃貸料の支払額にかかる税金を指定します。

注意:

【賃貸料】タブページは、契約の詳細画面の【全般】タブページで【タイプ】（SQL名:seType）フィールドが【マスターリース】以外に設定されており、【支払属性】（SQL名:sePayType）フィールドが【賃貸料】または【両方】（賃貸料とローンの両方）に設定されている場合のみ表示されます。

- 資産の賃貸料。資産の詳細画面の【賃貸料】タブページの【ファイナンス】サブタブページで、【税金】（SQL名：TaxFormula）、【税区分】（SQL名：TaxJuris）、【税率】（SQL名：pTaxRate）、【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドに、契約全体の賃貸料の支払額にかかる税金を指定します。

 **注意:**

【賃貸料】サブタブページは、【取得】タブページの【調達】サブタブページの【取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドが【レンタル】または【リース】に設定されている場合に表示されます。また、賃貸料が資産単位で比例配分された契約（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ/賃貸料サブタブページ/【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで指定）に資産が追加された場合に、自動的に作成されます。

- 税区分
- 場所。【税区分】（SQL名：TaxJuris）フィールドでは、税率の詳細情報が指定されている税区分テーブルにリンクできます。
- 税金のタイプ
- 経費明細。経費明細の【貸方税額】フィールドと【借方税額】フィールドには、貸方と借方の総額にかかる税金が表示されます。特に、資産ごとまたは契約全体の賃貸料の支払に関連する経費明細には、その賃貸料にかかる税金が表示されます。これらの経費明細は、資産および契約の詳細画面の【コスト】タブページに表示されます。
- Asset Manager Automated Process Managerモニタプログラム。このプログラムは、契約全体または資産ごとの賃貸料、分割処理、または経費付替えに対応する経費明細を自動的に作成します。作成される経費明細は、定期的な賃貸料とそれにかかる税金情報で構成されます。
- 調達サイクル（特に依頼、発注、請求）。調達サイクルで発生する税金は、【明細】タブページに表示されます。税金の詳細情報は、依頼明細、発注明細、請求明細のいずれかの詳細画面で指定できます。

概念と実用例

このセクションでは、税金を管理する上で使う概念について説明します。

税区分

税区分のテーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/IT財務管理/減価償却/税金/税区分】リンクを選択します。

税区分を使うと、場所、税率のタイプ、および税率を組み合わせることができます。税区分の詳細画面では、次の操作を実行できます。

- 特定の税区分の税率の編集（**【税率】** タブ）
- 指定日の特定の税区分の税率の表示（**【プレビュー】** タブ）

 **注意:**

税区分は階層構造になっています。

税率のタイプ

税率のタイプでは、適用する税金の種類を定義します。例えば、「地方税」などがあります。

【税率のタイプ】 のテーブルには、次の方法でアクセスできます。

- Windowsクライアントのみ：**【管理／画面一覧】** メニューを選択する。
- 税区分の詳細画面で、**【税率】** タブの **【税率のタイプ】**（SQL名：TaxType）リンクを選択する。

 **注意:**

税率のタイプの **【変数名】**（SQL名：SQLName）を税金の計算式に使うことができます。変数名には英数字だけを使い、スペースは入れないようにします。先頭の文字は英字でなければなりません。

税率

指定した税区分で適用可能な税率のタイプごとに、指定した日付以降の税率一覧を定義します。

指定した場所の税率のタイプに使う税率リストを表示するには：

- 1 場所を表示します（ナビゲーションバーの **【組織管理／組織／場所】** リンク）。
- 2 場所に対応する税区分の詳細画面を表示します（**【全般】** タブの **【税区分】**（TaxJuris）リンク）。
- 3 **【プレビュー】** タブを選択します。
- 4 指定した日付の税区分の税率のタイプに適用可能なすべての税率の一覧が表示されます。

税金の計算式

税金の計算式のテーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/減価償却/税金/税金の計算式] リンクを選択します。税金の計算式では、以下のようなBASIC計算式を使って税額を計算します。

```
RetVal = <税率> * <課税される経費>
```

税率は固定額、またはBASIC関数**AmTaxRate()**で計算される値です。この関数は、税率のタイプ、税区分、特定の日付に応じて税率の値を返します。

AmTaxRate()関数のシンタックスについては、『**Programmer's reference**』ガイドを参照してください。

簡単な計算式の例

```
RetVal = 21.6 * [mPrice]
```


実用例



警告:

この実用例はWindowsクライアントでのみ実行できます。

ここでは依頼明細の税を計算します。依頼明細は、税区分と税金の計算式に関連付けられます。税金の計算式は**AmTaxRate()**関数を使用します。

- 1 税区分を作成します。
 - a 税区分のリストを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/減価償却/税金/税区分] リンク）。
 - b 新規の税区分を作成します（ [新規作成] ボタン）。
 - c [名前] フィールドに値を入力します：実用例 - 税区分
 - d レコードを作成します（ [作成] ボタン）。
 - e [税率] タブを選択します。
 - f  (Windowsクライアント) または [追加] (Webクライアント) をクリックして、税率を追加します。
 - g 次のフィールドに値を入力します。
 - [税率のタイプ] (TaxType) : 実用例 - タイプ



注意:

['XXX' (テーブル'YYY') を作成しますか?] というメッセージが表示されたら、[仮作成] をクリックします。

- [課税日] (dApplication) : 2011年1月1日

- **【税率】** (pRateVal) : **10%**
 - h 同じレコードに連続追加入力のできる**連続追加用**のボタンをクリックします。
 - i 以下のフィールドに値を入力します。
 - **【税率のタイプ】** (TaxType) : **実用例 - タイプ**
 - **【課税日】** (dApplication) : **2011年7月1日**
 - **【税率】** (pRateVal) : **20%**
 - j **【追加】** をクリックします。
 - k Windowsクライアントの場合は**【変更】** を、Webクライアントの場合は**【保存】** をクリックします。
- 2 税金の計算式を作成します。
- a 税金の計算式を表示します（**【資産ライフサイクル/IT財務管理/減価償却/税金/税金の計算式】**リンク）。
 - b 新規の税金の計算式を作成します（**【新規作成】** ボタン）。
 - c 次のフィールドに値を入力します。
 - **【名前】** (pRateVal) : **実用例 - 計算式**
 - **【テーブル】** (TaxType) : **依頼明細 (amReqLine)**


 **注意:**

このフィールドの入力は、次のフィールドの前に完了する必要があります。

- **【スクリプト】** フレーム (このフレームは**【計算式】** (memFormula) フィールドを名前を付けずに表示します)

```
RetVal = amTaxRate("実用例 - タイプ", [TaxJurisId], [dtService], [mUnitCost]) * [mUnitCost]
```

- d **【作成】** (Windowsクライアント) または **【保存】** (Webクライアント) をクリックします。
- 3 依頼明細を作成します。
- a 依頼を表示します (ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼】**リンク)。
 - b 新規の依頼を作成します（**【新規作成】** ボタン）。
 - c **【目的】** フィールド (ReqPurpose) に値を入力します：**実用例 - 依頼**
 - d **【作成】** (Windowsクライアント) または **【保存】** (Webクライアント) をクリックします。
 - e **【明細】** タブを選択します。

- f  (Windowsクライアント) または [追加] (Webクライアント) をクリックします。
- g [購入] タブを選択します。
- h 次のフィールドとリンクに値を入力します。
 - [日付] (dtService) : **2011年7月15日**
 - [単価] (mUnitCost) : **100**
 - [税金の計算] (bUsesTaxForm) : オプションを選択します。
 - [税金] : **PC - 計算式**
 - [税区分] (TaxJuris) : **実用例 - 税区分**
- i [税率] (pTaxRate) と [税額] (mTaxValue) フィールドを確認します。これらのフィールドは、上記で作成/記入したフィールド、リンクとレコードに応じて自動的に計算されます。

税金の計算式を適用する

- 税金の計算式が場所、つまり税区分によって変わる場合は、次の作業を行います。
 - 1 Windowsクライアントのみ: [管理/画面一覧] メニューから、または税区分のテーブルから [税率のタイプ] ウィンドウを表示して、税率のタイプを作成します
 - 2 場所ごとに税区分を指定します。
 - 3 各税区分の税率のタイプに税率を定義します (各税区分の詳細画面の [税率] タブ)。
- 税金の計算方法を入力します。
 - 資産ごとまたは契約全体の賃貸料にかかる税金を支払う場合は、契約の詳細画面の [賃貸料] タブ、または資産の詳細画面の [支払] タブで税金の計算方法を入力します。
 - 税金が依頼明細または発注明細に関連する場合は、その明細の詳細画面の [購入] タブページで税金の計算方法を入力します。



注意:

依頼と発注の明細は、依頼と発注の明細の詳細画面の [明細] タブにリストされています。

- 税金が請求明細に関連する場合は、請求明細の詳細画面の [価格] タブページで税金の計算方法を入力します。



注意:

請求明細は、請求明細の詳細画面の「明細」タブにあります。

税金の計算方法は次のいずれかです。

- 固定（値を直接入力する）
- 計算式（計算式を使うことを指定する）

重要項目:

資産または契約の定期的な賃貸料の支払にかかる税金は、Asset Manager Automated Process Managerによって自動的に計算されます。この種の税金は、賃貸料の支払の経費明細に表示されます。賃貸料の支払の経費明細は、契約全体（資産に配賦も分割もされない賃貸料の支払）または契約上の資産単位（資産に比例配分される賃貸料の支払）で作成されます。



注意:

税金の自動計算は、リース契約の一時金には適用されません。

場所に応じて税金を指定する

このセクションでは、場所に関連する税金を指定する方法について説明します。

概要

場所によって支払う税金が変わる場合は、まず次の作業が必要です。

- 1 各場所に対応する税区分を定義する。
- 2 税区分ごとに税率のタイプと課税日現在の税率を定義する。


税区分のテーブルは階層構造になっており、指定した税区分について定義した税率のタイプと税率が下位の税区分のすべてに適用されるため、手動でコピーする必要はありません。

場所の詳細画面の「全般」タブページで、「税区分」（SQL名：TaxJuris）フィールドの税区分を場所に関連付けることができます。


税区分の税率のタイプを管理する

税区分に適用可能な税率を宣言する

- 1 税区分を次のいずれかの方法で表示します。

- 場所の詳細画面を表示し、**【税区分】** フィールドの右側にある選択ボタンをクリックします。
 - ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／IT財務管理／減価償却／税金／税区分】** リンクをクリックします。
- 2 **【税率】** タブを選択します。
 - 3 税率を追加します（Windowsクライアントでは  ボタン、Webクライアントでは **【追加】** ボタン）。
 - 4 次のいずれかの方法で、**【税率のタイプ】**（SQL名：TaxType）フィールドに入力します。
 - WindowsクライアントとWebクライアント：税率のタイプのテーブルで **【税率のタイプ】** を選択します。
 - Windowsクライアントのみの場合： **【税率のタイプ】** を作成します（ **【仮作成】** または **【詳細設定】** のどちらかを選択）。
 - 5 **【課税日】**（SQL名：dApplication）フィールドと **【税率】**（SQL名：pRateVal）フィールドに入力します。各フィールドには、税率の値とその税率の適用開始日を指定します。
 - 6 税率を追加します（Windowsクライアントでは **【追加】** ボタン、Webクライアントでは **【OK】** ボタン）。

税区分から税率を削除する

- 1 変更する税区分を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／IT財務管理／減価償却／税金／税区分】** リンク）。
- 2 **【税率】** タブを選択します。
- 3 削除する税率を選択します。
- 4 税率を削除します（Windowsクライアントでは  ボタン、Webクライアントでは **【削除】** ボタン）。

税区分の税金を表示する



警告:

この機能は、Windowsクライアントでのみ使用できます。

税率のタイプと税金の値を定義すると、その税区分で適用可能な税金を日付を指定して表示することができます。表示するには、次の手順に従います。

- 1 税区分を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／IT財務管理／減価償却／税金／税区分】** リンク）。
- 2 税金を表示する税区分を選択します。
- 3 **【プレビュー】** タブを選択します。

- 4 【課税日】フィールドに、その場所に適用可能な税金をリストする日付を入力します。
- 5 指定した日付現在で有効な税金が表示されます。これらは税区分固有の税金であり、親場所から継承された税金です。

賃貸料の税金の計算方法を指定する

このセクションでは、賃貸料の支払にかかる税金の計算方法を指定する方法について説明します。

税金の計算方法は、【税金】（SQL名：TaxFormula）、【税区分】（SQL名：TaxJuris）、【税額】（SQL名：mTaxValue）、【税率】（SQL名：pTaxRate）の各フィールドで定義します。これらのフィールドは、次のタブページで表示されます。

- 契約全体の賃貸料（【賃貸料】タブページ／【賃貸料】サブタブページ）
- 資産単位の賃貸料（【取得】タブページ／【賃貸料】サブタブページ）

【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）オプションに応じて、次のように税金の計算方法を指定できます。

- このオプションのチェックボックスをオフにすると、税金は固定されます。
- このオプションのチェックボックスをオンにすると、税金は計算式を使って計算されます。

固定税金

資産単位または契約全体の賃貸料にかかる税金を固定するには：

- 1 【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオフにし、税金を固定することを指定します。
- 2 【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドに税額を、または【税率】（SQL名：pTaxRate）フィールドに税率を入力します。

【賃貸料】サブタブページで税金を固定すると、毎回支払う賃貸料にかかる税金がすべて固定されます。

後で賃貸料が資産に配賦された場合は、資産単位の賃貸料にも同じ税金規則が適用されます。

税金の計算式

Asset Managerでは、計算式を使って税金を計算できます。

税金の計算式の詳細画面にアクセスするには：

- 1 **【税金の計算】** (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにし、計算式を使って税金を計算することを指定します。
- 2 税金の計算式が既に存在する場合：
 - Windows クライアントの場合: アイコンを使用して選択します。
 - Webクライアント: アイコンをクリックします。
- 3 税金の計算式が存在していない場合: **【税金】** フィールドの右側にある アイコンをクリックし、**【新規作成】** をクリックします。

税金の計算式には、次の情報が含まれています。

- **【名前】** (SQL名: Name)。税金の計算式のテーブル内で使われる固有の名前です。
- **【カテゴリ】** (SQL名: Category) : **[amTaxFormCategory]** カスタムリストデータから選択します。カテゴリは計算式の内容の説明です。このフィールドは、情報の参照用で、データの自動処理に使われることはありません。リストデータが「オープン」で、ユーザが適切な権限を持っている場合は、このフィールドに新しい値を入力できます。
- **【テーブル】** (SQL名: TableName)。リンクするテーブルです。
- **【計算式】** (SQL名: memFormula)。計算式のシンタックスを指定します。
Windowsクライアント: をクリックすると、計算式のBASICスクリプトを効率的に入力できるスクリプトビルダが表示されます。

税金の計算式にリンクしているテーブルのフィールドを、計算式に組み込むことができます。

[賃貸料] サブタブページのテーブルにリンクされている税金の計算式を選択できるかどうかは、次のように、賃貸料が資産単位で分割されているかどうか、さらにその分割の方法によって決まります。

- 次の計算式は、資産の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 契約に関連しない資産の賃貸料にかかる税金の計算式
 - 契約上の資産のすべてまたは一部に比例配分され、分割または配賦された契約賃貸料にかかる税金の計算式
- 次の計算式は、契約の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 資産に配賦されていない契約の賃貸料にかかる税金の計算式

税金の分割方法


- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使う場合は、税金は賃貸料の経費明細が作成されるときに資産ごとに直接計算されます。
- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使わない場合は、税金は契約単位で計算されます。
 - 賃貸料が資産に配賦されていない場合は、税金は契約の経費明細に統合されます。
 - 賃貸料が資産に配賦されている場合は、税金は賃貸料の計算と同じ規則に従って各資産の経費明細に分割されます。

税金の計算式のシンタックス

税金の計算式には複雑なシンタックスを指定でき、次の情報を組み込むことができます。

- 計算式がリンクするテーブルのフィールド
- 課税対象となる賃貸料の支払の税区分に適用可能な税率のタイプ。これらは変数名で指定します。

注意:

Asset Managerのスクリプトビルダは、ユーザが税金の計算式を記述する場合に役立ちます。スクリプトビルダを表示するには、計算式の入力フィールドの右側にある  をクリックします。

計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける


次に、計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける手順を示します。

手順1：場所のテーブルで指定

契約上の資産のすべて（または一部）に分割された資産賃貸料または契約全体の賃貸料に対して税金を支払う必要があり、その税金が資産の設置場所によって変わる場合は、次の手順を実行します。

- 1 場所を表示します（[組織管理/組織/場所] リンク）。
- 2 資産の設置場所を選択します。
- 3 設置場所の税区分を選択します。
- 4 この税区分に適用可能な税率のタイプ、および対応する税率と課税日を指定します。

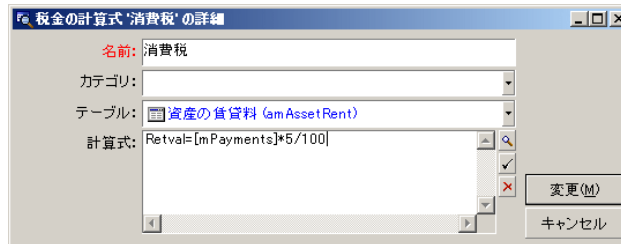
手順2：契約賃貸料または資産賃貸料の [計算式]（SQL名：TaxFormula）フィールドで指定

- 1 [税金の計算]（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオンにして、賃貸料にかかる税金を計算式で計算することを指定します。
- 2 税金の計算式が既に存在する場合は、[計算式] フィールドの右の  ボタンをクリックして計算式を選択します。
- 3 計算式がない場合は、Windowsクライアントを使用して、次の手順で [税金] フィールドから直接式を作成します。
 - 1 [計算式] フィールドに計算式の名前を入力し、別のフィールドにカーソルを移動します。
 - 2 表示されるダイアログボックスで [詳細設定] を選択すると、税金の計算式の詳細画面が表示されます。
 - 3 必要に応じて、計算式の [カテゴリ] を入力します。
 - 4 計算式のシンタックスを入力します。

- 4 **【変更】**（Windowsクライアント）または**【保存】**（Webクライアント）をクリックして、変更を確定します。

税区分に無関係な計算式の例

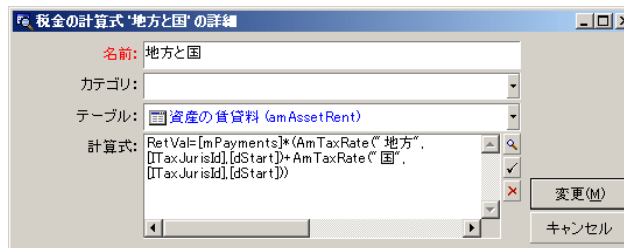
「税率のタイプ」を使わない計算式の例を次に示します。



この例では、税区分に無関係な税金の計算式が**【計算式】**（SQL名：**memFormula**）フィールドに直接入力されています。この式によると、税金は賃貸料の5%です。

税区分を指定する計算式の例

契約賃貸料をすべての資産に配分した場合に、各賃貸料にかかる税金を税区分を指定して計算する計算式の例を次に示します。



この例では、税金は契約賃貸料のある一定の割合と同じになります。この割合は、「地方」と「国」税率のタイプの値の合計です。

上の計算式の場合は、指定した期間の契約賃貸料に関連する税金を計算する過程が含まれています。

- 1 **Asset Manager Automated Process Manager**は、税率のタイプ（計算式に組み込まれる変数）が税区分に適用可能かどうかを調べます。
- 2 計算式に使用されている税率のタイプが既存の税区分にない場合は、対応する税率を0として計算します。

- 3 税率のタイプが既存の税区分にある場合は、Asset Manager Automated Process Managerは賃貸料の適用日現在の税率を調べ、これを計算式に使用します。適用日現在の税率が定義されていない場合は、0とします。
- 4 最後に、Asset Manager Automated Process Managerは税金の総額を計算し、賃貸料の経費明細に統合します。

賃貸期間中の税率の変化を管理する

税金の計算に使う税率のタイプの税率は、賃貸期間中（各計算期間内）に変わる可能性があります。

Asset Manager Automated Process Managerは、賃貸料の支払日に有効な税率を適用します。多くの場合はこれで十分です。

不十分な場合は、以下に説明するように、段階的な賃貸料を定義することをお勧めします。この場合、次のように税率の変化が考慮されます。

- 1 [賃貸料] サブタブページを表示します（契約の詳細画面の [賃貸料] タブページまたは資産の詳細画面の [取得] タブページで選択）。
- 2 賃貸料の支払の期限を、賃貸の期間内で税率が変わる直前の日付に変更します。
- 3 [賃貸料] サブタブページを複製し、次の賃貸料を新しく作成します。
 - 1 移行期間の賃貸料。この賃貸料に対しては、税金の計算式を使わずに直接値を入力して税金を固定します。
 - 2 税率変更後の期間の賃貸料。

調達サイクルで税金を使う

このセクションでは、資産の調達サイクルで税金を使う方法について説明します。

はじめに

資産の調達に関連する税額は、調達の各過程（購入依頼、見積、発注、請求書）で、依頼、見積、発注、または請求書の詳細画面にある [明細] タブページの下側に表示されます。

注意:

[明細] タブページに表示される総額は、情報の提供のみを目的としており、ユーザが直接編集することはできません。ただし、依頼、発注、請求書のいずれかの明細の詳細画面でその明細に対応する税金を定義できます。

自動処理機能

Asset Managerでは、調達サイクルの各過程に税額が継承されます。例えば、購入依頼で税金を定義すれば、発注と請求書を作成するときに、自動的に同じ金額が入力されます。

調達サイクルで指定した税金を、前の過程に反映させることはできません。例えば、発注を作成するときに税金を定義しても、元の購入依頼の税金は変更されません。



注意:

調達サイクルの自動処理で各過程の値が食い違うことがないようにするためにも、税金は調達サイクルのできるだけ早い過程（購入依頼）で規則的に定義することをお奨めします。

税金を入力する

税金を入力する

調達サイクルの各過程で税金を入力するには、次のタブページを使います。

- 依頼明細の詳細画面の【購入】タブページ
- 発注明細の詳細画面の【購入】タブページ
- 請求明細の詳細画面の【価格】タブページ

各詳細画面の右下の領域で税金を指定します。税金を固定する場合は、【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオフにし、税額または税率を直接入力します。計算式を使って税金を計算する場合は、【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオンにして税金の計算式を選択します。

税金の自動処理

依頼、発注、請求のいずれかの明細の詳細画面の【購入】タブページでは、次のフィールドが互いにリンクしており、指定した値に応じてデータが自動的に処理されます。

表 4.1. 税金の自動処理

変更するフィールド	自動的に変更されるフィールド	自動処理に使われるフィールド
【単価】（SQL名：mUnitCost）	【税額】（SQL名：mTaxValue）	【税金】（SQL名：TaxFormula）
【税金】（SQL名：TaxFormula）	【税額】（SQL名：mTaxValue）	【単価】（SQL名：mUnitCost）

変更するフィールド	自動的に変更されるフィールド	自動処理に使われるフィールド
[税率] (SQL名 : pTaxRate)	[税額] (SQL名 : mTaxValue)	[単価] (SQL名 : mUnitCost)

[総額] (SQL名 : mCost) フィールドの値は、次の計算式によって計算されます。

$$\text{合計} = (\text{単価} + \text{税額}) * (1 - \text{割引率})$$

5 総所有コスト (TCO)

概要

TCO（総所有コスト）計算の目的は、ソフトウェア資産とハードウェア資産を所有することで発生する、直接的および間接的なすべてのコストを特定することです。

これらの中には、資産の取得、研修、サポート、および更新にかかった原価も含まれます。

TCOを計算することは、異常に増減した経費を特定する最適な方法です。

所有資産の総所有コストの管理は、企業の利損益に大きな影響を与えます。専門家の分析結果では、所有資産の総所有コストを徹底的に管理することで、2年間で30～40%の減額が可能なこと、また逆にこの戦略を誤ると50%増額する危険性もあることが報告されています。

資産のTCOには次のようなものがあります。

- ハードウェアおよびソフトウェアの取得原価
- 管理費（外部費用および内部費用）
- エンドユーザ原価

ハードウェアおよびソフトウェアの取得原価

これらの原価には、デスクトップおよびラップトップコンピュータ、サーバ、周辺機器、およびネットワークシステムなどの経費が含まれます。

また、ハードウェアとソフトウェアの購入およびリースの原価も含まれます。

一般的に、取得原価は、資産、リース契約、および購入金額によって計算されず、損失額もその中に含まれます。

このコストタイプは、さらに次の従属カテゴリに分類されます。

- ハードウェア取得原価：ハードウェアの購入またはアップグレード時に発生した経費。取得原価は、ある特定の期間で減価償却されます。これは資産のカテゴリによっても異なりますが、デスクトップコンピュータの場合は一般的に定額法により3年間で減価償却されます。
- ソフトウェア経費：ソフトウェアの購入またはアップグレード時に発生した経費。これらの経費は、固定資産のしきい値を超えたときのみ減価償却されます。“Select”契約タイプの一環として取得されるライセンスなど特定のライセンスでは、指定された期間内に発生した経費。例えば、3年間で300万円の“Select”契約タイプの原価は、100万円ずつの支払額に分割できます（3年間に毎年1回ずつ支払）。
- 賃貸費：ハードウェアおよびソフトウェアのリース料金。

管理費

ハードウェア資産またはソフトウェア資産に対して行われたインストール、管理、サポート、研修、および保守の経費が含まれます。この経費には、外部の技術者のサービスに対して支払った外部費用、および社内のIT部門の技術者がハードウェアをインストールしたときにかかる内部費用の2種類あります。外部費用には必ず支払先からの請求書が伴うため、簡単に評価できます。内部費用の場合は、各従業員のカテゴリに応じた時給で見積ることができます。例えば、エンジニアが1時間の作業を行った場合、20,000円の請求を行うことができます。このカテゴリの原価には、管理契約（社内および社外の保守契約）で発生したすべての経費も含まれます。

エンドユーザ原価

この原価は、資産の使用に関連する間接的な費用です。このカテゴリは、次のように大別されます。

- 通常のテクニカルサポート担当者を使わずに、エンドユーザ自身またはその他のユーザがサポート業務を実行した場合に発生する経費。
- 自主トレーニング費：マニュアルを読んだり、ハードウェアやソフトウェアをテストするなど、エンドユーザが自分で学習した時間にかかる経費。

注意:

慣習的に、これらの経費には書類が伴わないため、調査が必要です。例えば、これらの経費を、書類の伴う経費（取得、リース、またはメンテナンス費など）の一部として計上することは難しいことです。ハードウェア、ソフトウェア、および管理費の約27%をユーザ原価として計上する例もあります。

TCO計算を適用する

TCOを自動計算する前に、このセクションで説明するタスクを実行する必要があります。

必要なモジュールを有効にする

次の条件を満たす必要があります。

- データベースに対してアクティブ化されたHP AutoPass ライセンスキーに以下のモジュールを含めます。
 - ▶ Asset Manager 『管理』 ガイドの「ライセンスキーをインストールする」の章
- Windowsクライアントに対して以下のモジュールを有効にする([ファイル/モジュールの管理] メニュー)。

表 5.1. TCO - 必要なモジュール

必要な機能	必須モジュール (Windowsクライアント)	必須モジュール (ライセンス名)
コスト管理	ファイナンス	AM財務管理
資産管理	ポートフォリオ	AM資産ポートフォリオ
作業指示管理	ポートフォリオ	AM資産ポートフォリオ
ヘルプデスクチケット管理	ヘルプデスク	ヘルプデスク
契約	契約	AM契約管理
調達	調達	AM調達

既存のデータベースに専門分野データを挿入する

このセクションでインポートできる専門分野データは、作業指示用の経費明細の作成を自動化するのに使用されます。

ヘルプデスクチケットの作業を含む経費明細の作成を自動化するのににも使用されます。

データベースの作成時

データベースの作成中にTCO専門分野データを挿入するには、『管理』ガイドの「**Asset Managerデータベースの作成、変更、削除/Asset Manager Application Designer**を使ってデータベース構造を作成する」のセクションに記述されている手順に従います。

[インポートするデータ] ページで、[ファイナンス-専門分野データ (TCO)] を選択します。

データベースの作成後

専門分野データの既存データベースへのインポート

データベースの作成時にTCO専門分野データを挿入しなかった場合、次の操作を行います。

- 1 Asset Manager Application Designerを起動します。
- 2 [ファイル/開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 Asset Managerインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xml ファイルを選択します。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します ([アクション/データベースの作成] メニュー) 。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、 [戻る] ボタンを使用します) 。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ :

フィールド	値
データベース	レポートのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しません。

[作成パラメータ] ページ :

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。

注意:

Asset Managerデータベース管理者は、 [部署名/姓] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。

データベース接続ログインは [ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名は「Admin」です。

パスワードは [パスワード] (LoginPassword) フィールドに保存されます。

[インポートするデータ] ページ :

フィールド	値
使用可能データ	オプション [ファイナンス - 専門分野データ (TCO)] を選択します。
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

7 ウィザードで定義したオプションを実行します（ [完了] ボタン）。

Asset Managerユーザに適切なアクセス権限を割り当てる

作業指示によって経費明細を自動的に作成する場合、作業指示伝票を準備するユーザに [経費明細] (amExpenseLine) テーブルに対する次のアクセス権限があることを確認します。

- テーブル：
 - 作成
 - 削除

ヘルプデスクチケットを準備するユーザに対しても同様に確認を行います。

内部の技術者の時給を定義する

内部メンテナンス作業指示で、経費明細の自動作成をトリガする場合、次の準備タスクを実行する必要があります。

注意:

この手順は、ヘルプデスクチケットの作業に対して経費明細を自動的に作成するためにも必要です。

- 1 [コード] (Code) フィールドが [TCO_WORK_UNIT] の属性があることを確認します。
- 2 次のフィールドとリンクに入力して、少なくとも1つのモデルを作成します。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
名前	Name	希望の値
[全般] タブ		
属性	Nature	[コード] (Code) フィールドが [TCO_WORK_UNIT] の属性を選択します。

- 3 次のフィールドとリンクに入力して、作業指示の費用ごとに製品を作成します。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
説明	Description	希望の値（例：モデルの名前）
[全般] タブ		
モデル	Model	[コード] (Code) フィールドが [TCO_WORK_UNIT] の属性にリンクされたモデルを選択します。
[従業員] タブ		
作業単位	tsUnitDuration	内部作業指示の請求に使用される時間の単位。
乗数	fOverheadFactor	このフィールドは、[表記価格] (mPrice) フィールドから内部の経費付替え価格を生成して、適用可能な内部の経費付替え利益を計算するために使用されます。 [表記価格] (mPrice) フィールドが内部の経費付替え価格に既に対応している場合は、[乗数] フィールドに値「1」を割り当てます。
[取得] タブ		
表記価格	mPrice	技術者の作業単位ごとの内部費用。 このフィールドに内部の経費付替え価格を手動で入力することもできます。 この場合、[乗数] フィールドに値「1」を割り当てます。 (fOverheadFactor)。

- 4 次のフィールドに入力して、内部の経費付替え費用を定義している製品に各技術者を関連付けます。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
[コスト] タブ		
サービスの費用	Cost of services	技術者の作業単位あたりのレートを提供する製品を選択します

TCO計算で以前の経費明細を考慮に入れる

TCO計算を設定したら、既存のすべての経費明細を更新して、[経済的償却期間] (tsAccrualPeriod) フィールドに定義した規格に準拠する値を格納するようになる必要があります。

これを行うには、**TcoLib**スクリプトライブラリの**lAccrualPeriod**関数を使用できます。

同じ関数を使用して、[経済的償却期間] (tsAccrualPeriod) フィールドにデフォルト値を入力することもできます。

Asset Managerで総所有コスト（TCO）を計算する

資産のTCO

資産のTCOを計算する

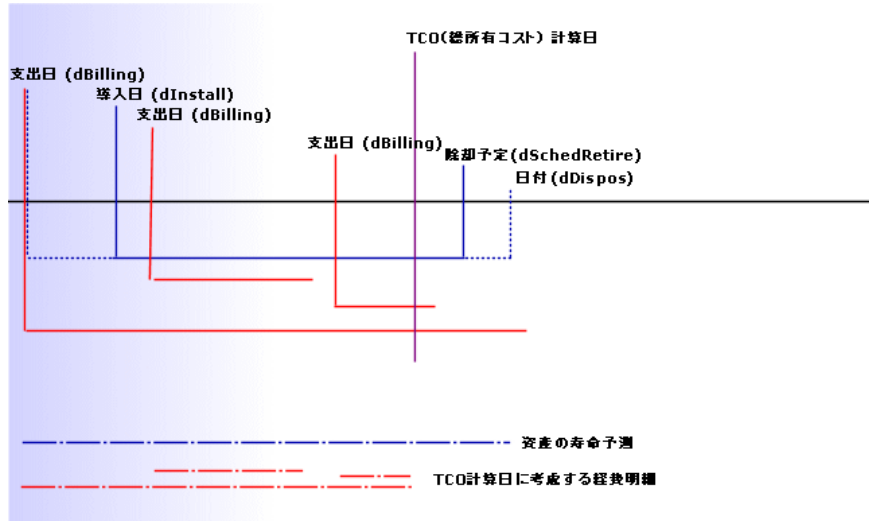
資産のTCOを計算するには：

- 1 資産のリストを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産]リンク）。
- 2 資産の詳細画面を表示します。
- 3 Windowsクライアント：[TCO計算] ボタンをクリックします。
Webクライアント：[アクション...] ドロップダウンリストから[TCO計算] を選択します。
- 4 [ROI] タブを選択して、[年間総所有コスト（TCO）]（mAvgYearlyTco）フィールドを調べます。

資産のTCOの計算方法

- 1 TCO計算をトリガするには、Windowsクライアントで[TCO計算] ボタンをクリックするか、Webクライアントで資産の詳細画面の[アクション...] ドロップダウンリストから[TCO計算] を選択します。
- 2 このボタンまたはエントリでは、[年間TCOを計算]（sysCoreCalcAvgYearlyTco）アクションがトリガされます。
- 3 このアクションでは、**TcoLib**（TcoLib）スクリプトの**CoreCalcAvgYearlyTCO**関数（ナビゲーションバーの[管理/スクリプトライブラリ...] リンク）をトリガします。
- 4 資産がビジネスサービスでない場合、**CoreCalcAvgYearlyTCO**関数は、**CoreCalcAvgYearlyTCOAsset**関数を呼び出します。この関数はまた**CoreCalcAvgYearlyTCOSimpleAsset**関数を呼び出し、従属資産のTCOを計算します。
資産がビジネスサービスである場合、**CoreCalcAvgYearlyTCO**関数は、**CoreCalcAvgYearlyTCOBusinessService**関数を呼び出します。この関数はまた、ビジネスサービスコンポーネント用の**CoreCalcAvgYearlyTCOAsset**関数を呼び出します。
- 5 これらの関数は、資産とその従属資産、リソース（ビジネスサービスの場合）とその従属資産の[総所有コスト（TCO）]（mAvgYearlyTco）フィールドを更新します。

図 5.1. TCO計算 - 対象日付



資産のTCOは次のように計算されます。

- TCOは基本通貨1で算出されます。
- 【支出日】 (dBilling) フィールドの値が現在の日付より前の経費明細が対象となります。
- 対象となる経費明細ごとに、次の計算式を使用して、TCO計算日の減価償却された経費の割合が計算されます。

$$\frac{(DHT - CHT) * (D1とD2間の期間)}{DA}$$

条件:

- **DHT** = 経費明細の詳細画面の【借方 (通貨Aの換算額)】 (mDebitRef1)
- **CHT** = 経費明細の詳細画面の【貸方 (通貨Aの換算額)】 (mCreditRef1)
- **D1** = 経費明細の詳細画面の【支出日】 (dBilling)
- **D2** = 次の2つのうち古い日付
 - 現在の日付
 - 経費明細の詳細画面の【支出日】 (dBilling) フィールド + 【経済的償却期間】 (tsAccrualPeriod)
- **DA** = 経費明細の詳細画面の【経済的償却期間】 (tsAccrualPeriod) フィールド
- 両方の経費明細から得られる金額は加算されます。

- 1年間の合計金額は次の式を使用して計算されます。

$$\text{TCO} = S / (\text{D1とD2間の期間})$$

条件:

- **S** = 各経費明細用に控除されている金額の合計
- **D1** = 次のうち古い日付
 - 資産の詳細画面の【導入日】（dInstall）フィールド
 - 経費明細の詳細画面の【支出日】（dBilling）フィールド
- **D2** = 次のうち古い日付
 - TCO計算日
 - 次のうち最新の日付：
 - 資産の詳細画面の【除却予定】（dSchedRetire）フィールド
このフィールドに値が入力されていない場合：資産の詳細画面の【除却日】（dDispos）フィールド
これらのフィールドに値が入力されていない場合：資産の詳細画面の【導入日】（dInstall）フィールド + モデルの詳細画面の【経済的償却期間】（tsLifeExpectancy）フィールド
これらのフィールドに値が入力されていない場合：資産の詳細画面の【導入日】（dInstall）フィールド + 3年
 - 経費明細の詳細画面の【支出日】（dBilling）フィールド + 【経済的償却期間】（tsAccrualPeriod）

ビジネスサービスのTCO

ビジネスサービスのTCOを計算する

ビジネスサービスのTCOを計算する場合、いくつかの方法があります。

- ビジネスサービスの詳細画面から行う場合：
 - 1 ビジネスサービスの一覧を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ビジネスサービス/ビジネスサービス】リンク）。
 - 2 ビジネスサービスの詳細画面を表示します。
 - 3 Windowsクライアント：【TCO計算】 ボタンをクリックします。
Webクライアント：【アクション...】 ドロップダウンリストから【TCO計算】を選択します。
 - 4 【ROI】 タブを選択して、【年間総所有コスト（TCO）】（mAvgYearlyTco）特殊フィールドを調べます。
- ビジネスサービスのいずれかのクライアント-リソース関係から行う場合：

- 1 クライアント-リソース関係の一覧を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係] リンク）。
- 2 ビジネスサービスのいずれかのクライアント-リソース関係の詳細画面を表示します。
- 3 Windowsクライアント： [TCO計算] ボタンをクリックします。
Webクライアント： [アクション...] ドロップダウンリストから [TCO計算] を選択します。
- 4 [総所有コスト (TCO)] (mAvgYearlyTco) 特殊フィールドを確認します。

ビジネスサービスのTCOの計算方法

- 1 TCO計算をトリガするには、Windowsクライアントで [TCO計算] ボタンをクリックするか、Webクライアントでビジネスサービスの詳細画面の [アクション...] ドロップダウンリストから [TCO計算] を選択します。
- 2 このボタンまたはエントリでは、次のアクションがトリガされます。
 - 資産から呼び出される場合は、 [年間TCOを計算] (sysCoreCalcAvgYearlyTco) アクション。
 - クライアント-リソース関係から呼び出される場合は、 [ビジネスサービスの年間TCOを計算] (sysCoreCalcAvgYearlyTcoCR) アクション。
- 3 これらのアクションは、 **TcoLib** (TcoLib) スクリプトの **CoreCalcAvgYearlyTCO**関数（ナビゲーションバーの [管理/スクリプトライブラリ...] リンク）をトリガします。
CoreCalcAvgYearlyTCO関数は、
CoreCalcAvgYearlyTCOBusinessService関数を呼び出します。
CoreCalcAvgYearlyTCOBusinessService関数は、ビジネスサービスのコンポーネント用に**CoreCalcAvgYearlyTCOAsset**関数を呼び出します。
- 4 これらの関数は、ビジネスサービスとその従属資産、ビジネスサービスのリソースとこれらのリソースの従属資産の [総所有コスト (TCO)] (mAvgYearlyTco) フィールドを更新します。

ビジネスサービスのTCO計算規則とは？

ビジネスサービスのTCOには次のものが含まれます。

- ビジネスサービス自身のTCO（資産として）。
従属資産のTCOが含まれます。
- ビジネスサービスのリソースのTCOの一部。

ビジネスサービスおよびリソースのTCOは、**資産のTCO** [P. 65]セクションで説明されている手順に従って計算されます。

ビジネスサービスのリソースに含まれるTCOの一部は、リソースをビジネスサービス内のクライアントにリンクする、クライアント-リソース関係の【財務のインパクトの計算方法】（seFinImpactCalc）フィールドによって異なります。

- 計算方法が【なし】の場合：リソースのTCOは計算で考慮されません。
- 計算方法が【関係の財務面でのインパクト】の場合：リソースのTCOの値に、財務のインパクト（クライアント-リソース関係の【財務のインパクト】（pFinImpact）フィールド）が乗算されます。
- 計算方法が【均一に細分化】の場合：リソースのTCOの値に次の値が乗算されます。

$$\frac{[I-I]*Z}{N}$$

次のキーワードで並び替え順序を指定できます。

- **I**は、現在のリソースにリンクされているクライアント-リソース関係の財務のインパクト、および財務のインパクトの計算方法が【関係の財務面でのインパクト】であるクライアント-リソース関係のタイプにリンクされているクライアント-リソース関係の財務のインパクトの合計になります。
- **Z**は、財務のインパクトの計算方法が【均一に細分化】であるビジネスサービス内のリソースにリンクされているクライアント-リソース関係の数になります。
- **N**は、このリソースに対する財務のインパクトの計算方法が【均一に細分化】であるクライアント-リソース関係の数になります。

この処理は、リソースが何度か使用されていても、それぞれのクライアント-リソース関係に対して実行されます。

モデルのTCO

モデルのTCOを計算する

モデルのTCOを計算するには：

- 1 モデルの一覧を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産構成／モデル】リンク）。
- 2 モデルの詳細画面を表示します。
- 3 Windowsクライアント：【TCO計算】ボタンをクリックします。
Webクライアント：【アクション...】ドロップダウンリストから【TCO計算】を選択します。
- 4 【全般】タブを選択して、【年間総所有コスト（TCO）】（mAvgYearlyTco）特殊フィールドを調べます。

モデルのTCOの計算方法

- 1 TCO計算をトリガするには、Windowsクライアントで **[TCO計算]** ボタンをクリックするか、Webクライアントでモデルの詳細画面の **[アクション...]** ドロップダウンリストから **[TCO計算]** を選択します。
- 2 このボタンまたはエントリでは、**[モデルの年間TCOを計算]** (sysCoreCalcAvgYearlyTcoModel) アクションがトリガされます。
- 3 TCO計算にはしばらく時間がかかるため、このウィザードでは警告メッセージが表示されます。
- 4 TCO計算が確認されると、このウィザードによって、**TcoLib** (TcoLib) スクリプトの**CoreCalcAvgYearlyTCOModel**関数 (ナビゲーションバーの **[管理/スクリプト ライブラリ...]** リンク) がトリガされます。
- 5 モデルがビジネスサービスモデルでない場合、**CoreCalcAvgYearlyTCOModel**関数は、**CoreCalcAvgYearlyTCOAsset**関数を呼び出します。
モデルがビジネスサービスモデルの場合、**CoreCalcAvgYearlyTCOModel**関数は、**CoreCalcAvgYearlyTCOBusinessService**関数を呼び出します。
- 6 これらの関数は、モデル、このモデルにリンクされている資産、これらの資産にリンクされている従属資産、リソース (ビジネスサービスの場合) とこれらのリソースにリンクされている従属資産の **[総所有コスト (TCO)]** (mAvgYearlyTco) フィールドを更新します。

モデルのTCOの計算方法

モデルのTCOは次のように計算されます。

- TCO値がNULLでないモデルに関連付けられている資産 (従属資産を含む) のTCO平均値が計算されます。
- モデルに関連付けられている資産のTCOは、**資産のTCO [P. 65]**セクションで説明されている手順に従って計算されます。

資産、ビジネスサービス、またはモデルのTCOの計算方法を変更するには



警告:

これには高度な専門知識が必要です。

- 1 **TcoLib** (TcoLib) スクリプトを複製します (ナビゲーションバーの **[管理/クエリ]**) 。
- 2 TCOの計算方法に応じて**TcoLib**スクリプトの関数を変更します。
- 3 **[年間TCOを計算]** (sysCoreCalcAvgYearlyTco) 、 **[モデルの年間TCOを計算]** (sysCoreCalcAvgYearlyTcoModel) 、 および **[ビジネスサービスの年間TCOを計算]** (sysCoreCalcAvgYearlyTcoCR) の各アクションを複製します (ナビゲーションバーの **[管理/アクション]** リンク) 。

- 4 複製された**TcoLib**スクリプトを呼び出すように、アクションを変更します。
- 5 Asset Manager Application Designerを使用して、
sysCoreCalcAvgYearlyTco、sysCoreCalcAvgYearlyTcoModel、
sysCoreCalcAvgYearlyTcoCRの各アクションをトリガするボタンがある、
[資産] (amAsset)、[モデル] (amModel)、および[クライアント-リ
ソース関係] (amClientResource) の各テーブルを複製します。
複製したsysCoreCalcAvgYearlyTco、sysCoreCalcAvgYearlyTcoModel、
sysCoreCalcAvgYearlyTcoCRの各アクションをトリガするように、これらの
ボタンを変更します。
- 6 Asset Managerユーザが元のシステム画面でなく複製された画面を使用する
ようにします。

 **ヒント:**

データベース内のシステムオブジェクトは変更できないため、この手順を使用し
て変更する必要があります。Asset Managerを新しいバージョンに移行すると、
システムオブジェクトも新しいシステムオブジェクトで書き換えられます（つま
り、カスタマイズ内容は失われます）。

TCO計算を自動化する

ここでは、資産のTCOを定期的かつ自動的に再計算する方法について説明しま
す。

このタスクは、[資産の年間総所有コストの平均]
(TCO_AVG_YEARLY_CALC) ワークフロースキームで実行されます。

[資産の年間総所有コストの平均] ワークフロースキームの主要機能

このワークフロースキームは、[ファイナンス-専門分野データ (TCO)] の一
部です。

▶ 既存のデータベースに専門分野データを挿入する [P. 61]

表 5.2. [資産の年間総所有コストの平均] ワークフロースキーム

ワークフロースキームのトリガ	ワークフロースキームの初期イベントのスケ ジュール設定で定義した周期に従います。デ フォルトでは、毎週土曜日午後2時にトリガさ れます。
ワークフロースキームの起動と実行に Asset Manager Automated Process Manager が必要か？	はい

このワークフロースキームは、全モデルと全資産のTCOを再計算する [全資産の年間TCOの計算] (CalcAvgYearlyTcoAll) アクションを実行します。このために、このアクションでは、**TcoLib** (TcoLib) スクリプトの **CoreCalcAvgYearlyTCOModel**関数 (ナビゲーションバーの [管理/スクリプト] リンク) をトリガします。

Asset Manager Automated Process Managerパラメータ

Asset Manager Automated Process Managerは、 [資産の年間総所有コストの平均] ワークフロースキームをトリガするかどうかを、ワークフローの初期イベントのスケジュール設定に応じて検証します。

Asset Manager Automated Process Managerでこのタスクを実行するには：

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 Asset Managerデータベースに接続します ([ファイル/データベースに接続] メニュー) 。
- 3 モジュールを表示します ([ツール/モジュールの設定] メニュー) 。
- 4 [実行グループ'TCO'にワークフロー規則を適用] (WkGroupTCO) モジュールを選択します。
- 5 [有効] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- 6 必要に応じて、モジュールのトリガ時点を変更します ([検証スケジュール] フレーム) 。

Asset Manager Automated Process Managerをバックグラウンドタスクとして実行する

Asset Manager Automated Process Managerは、 [実行グループ'TCO'にワークフロー規則を適用] モジュールを定期的に行うために、バックグラウンドタスクとして実行する必要があります。

TCOに含まれる経費明細を生成する

Asset Managerで総所有コスト (TCO) を計算する [P. 65]のセクションでは、資産、ビジネスサービス、モデルのTCOの表示方法、およびTCO計算の実行方法を説明しました。

しかし、Asset Managerで総所有コスト (TCO) を計算する [P. 65]セクションでは、資産にリンクされている経費明細の生成方法については説明されていません。

ここでは、その生成方法について説明します。

経費明細の生成に使用する方法

次の表では、経費明細の生成方法について説明します。

経費タイプ	経費明細の自動作成をトリガするイベント	経費明細の【支出日】(dBilling)の入力で考慮する必要がある情報
資産の購入	資産の【購入価格】(mPrice)フィールドに値を入力します。 注意: 調達モジュールを使用する場合、このフィールドには自動的に値が入力されます。	資産の【購入日】(dAcquisition)フィールド
資産のレンタル	Asset Manager Automated Process Managerの【賃貸料とローンの計算】(Rent)モジュールは、賃貸料に対応する経費明細を自動的に生成します。	賃貸料の詳細から差し引かれるローン支払の日付
資産のローン支払	Asset Manager Automated Process Managerの【賃貸料とローンの計算】(Rent)モジュールは、返済に対応する経費明細を自動的に生成します。	ローン返済日
契約メンテナンスおよび契約外メンテナンスタイプの作業指示	作業指示の【実質経費】(mCost)フィールドに値を入力します。	作業指示の【作業完了日】(dtActualFixed)フィールド
内部メンテナンスタイプの作業指示	作業指示の次のいずれかのフィールドに値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 【作業時間】(tsTotalTimeBill) ■ 【内部技術者】(Technician) 注意: 技術者の【サービスの費用】(WorkUnit)リンクに値を入力しておく必要があります。	作業指示の【作業完了日】(dtActualFixed)フィールド
ヘルプデスクチケット	ヘルプデスクの作業を作成する。	作業の【開始】フィールド。
さまざまな経費	手動作成	デフォルトでは、明細の作成日

[経済的償却期間] (tsAccrualPeriod) フィールドの計算に使用される方法

ここでは、**TcoLib** スクリプトライブラリの **!AccrualPeriod** 関数が、経費明細の【目的】(sePurpose)フィールドの値に応じて、【経済的償却期間】(tsAccrualPeriod)フィールドの値を計算する方法について説明します。

【sePurpose】フィールドの値が【購入(資産)】、【初回金(資産)】、【ライセンスの追加】、または【調整】の場合

計算した値	使用するリファレンス
償却期間開始日	資産の詳細画面の【導入日】 (dInstall) フィールド
償却期間終了日	次の値のうち最初に入力した値： <ul style="list-style-type: none"> ■ 資産の詳細画面の【日付】 (dDispos) フィールド ■ 資産の詳細画面の【除却予定】 (dSchedRetire) フィールド ■ 資産の詳細画面の【導入日】 (dInstall) フィールド + モデルの詳細画面の【経済的償却期間】 (tsLifeExpectancy) フィールド ■ 上記以外の場合：3年
手動で入力できる最適な期間	資産の予測寿命

【sePurpose】フィールドの値が【プロジェクト】の場合

計算した値	使用するリファレンス
償却期間開始日	次のうち最新の日付： <ul style="list-style-type: none"> ■ 資産の詳細画面の【導入日】 (dInstall) フィールド ■ 経費明細の詳細画面の【支出日】 (dBilling) フィールド ■ プロジェクトの詳細画面の【開始】 (dStart) フィールド
償却期間終了日	次のうち最も古い日付： <ul style="list-style-type: none"> ■ 資産の詳細画面の【日付】 (dDispos) フィールド ■ 資産の詳細画面の【除却予定】 (dSchedRetire) フィールド ■ プロジェクトの詳細画面の【終了】 (dEnd) フィールド

 **注意:**

日付が見つからない場合、1年の期間が使用されます。

[sePurpose] フィールドの値が [その他] の場合

 注意:

[sePurpose] フィールドは、ローン支払明細に対して [その他] に設定されます。

固定期間：30日

[sePurpose] フィールドの値が [初回金(契約)] の場合

計算した値	使用するリファレンス
償却期間開始日	次のうち最新の日付： <ul style="list-style-type: none">■ 資産の詳細画面の [導入日] (dInstall) フィールド■ 経費明細の詳細画面の [支出日] (dBilling) フィールド■ 契約の詳細画面の [開始] (dStart) フィールド
償却期間終了日	次のうち最も古い日付： <ul style="list-style-type: none">■ 資産の詳細画面の [日付] (dDispos) フィールド■ 資産の詳細画面の [除却予定] (dSchedRetire) フィールド■ 契約の詳細画面の [終了] (dEnd) フィールド

 注意:

日付が見つからない場合、1年の期間が使用されます。

[sePurpose] フィールドの値が [支払] または [契約] の場合

- 契約の主賃貸料の詳細画面の [回数] (sePeriodicity) フィールド
- [回数] (sePeriodicity) フィールドの値が **0** (一括) の場合：▶
[sePurpose] フィールドの値が [初回金(契約)] の場合 [P. 75]

[sePurpose] フィールドの値が [作業指示]、[社内作業(作業指示)]、または [社内作業(チケット)] の場合

計算した値	使用するリファレンス
固定期間	<ul style="list-style-type: none">■ 作業指示：作業指示のモデルの [経済的償却期間] (tsLifeExpectancy) フィールド■ 研修会：研修モデルの [経済的償却期間] (tsLifeExpectancy) フィールド■ ヘルプデスクの作業：3ヶ月■ その他：3ヶ月
手動で入力できる最適な期間	資産または資産モデルに対する類似の作業指示間の平均時間

[sePurpose] フィールドの値が [消費] または [購入(消耗品)] の場合

計算した値	使用するリファレンス
固定期間	1年
手動で入力できる最適な期間	消耗品の予測寿命

[sePurpose] フィールドの値が [研修] の場合

計算した値	使用するリファレンス
固定期間	<ul style="list-style-type: none">■ 研修モデルの [経済的償却期間] (tsLifeExpectancy) フィールド■ 上記以外の場合：1年
手動で入力できる最適な期間	研修会が役に立つ期間

6 経費付替え

この章では、経費付替え処理とそれを自動化する方法について説明します。また、実際の機能を確認するための手順を示した実用例も紹介します。これらの実用例によって、再請求の特徴が明らかになります。

前提条件

経費付替えを実行するには、次のモジュールに含まれるHP AutoPass ライセンスキーセットを使用してデータベースを有効化している必要があります。

- ファイナンス
 - 経費付け替えオプション
- ▶ Asset Manager 『管理』 ガイドの「ライセンスキーをインストールする」の章
Windowsクライアントの場合、これらのモジュールを有効にする必要があります（【ファイル/モジュールの管理...】メニュー）。

概要

経費付替えは、配賦元コストセンタによって支払われた経費を、実際の経費発生元である配賦先コストセンタに再配賦するために使用されます。

Asset Managerを使用すると、経費付替え明細の作成を自動化する経費付替え規則を定義できます。

配賦元コストセンタは経費付替え額が貸方に入り、配賦先コストセンタは同じ額が借方に入ります。貸方の金額と、借方の合計額は、互いに釣り合っています。

例：情報システム部門によるコンピュータのインストールに対応する経費付替え規則を定義できます。コンピュータレコードがデータベース内に作成されると、Asset Managerによって2つの経費明細が自動的に作成されます。

- 実施されたサービスを計上するために情報システム部コストセンタの貸方に入れる経費明細
- コンピュータがインストールされた部署のコストセンタの借方に入る経費明細

ヒント:

任意のイベントに対して、複数の経費付替え規則を作成できます。

それらの規則が互いに整合性を保つようにします（矛盾や重複がないようにします）。

経費付替えシステムを作成する

任意の経費タイプの経費付替えを自動化するには：

- 1 経費付替えシステムを作成します（ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム】** リンク）。
- 2 経費付替えシステムに規則を追加します（**【規則】** タブ）。
特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
【全般】 タブ	
【イベント】 フレーム内のフィールドおよびリンク	規則を適用するトリガとなるイベントを定義します。
【金額の計算】 フレーム内のフィールドおよびリンク	経費明細の貸方および借方を計算する方法を定義します。
【コストタイプ】 フレーム内のフィールドおよびリンク	貸方と借方の経費明細を配賦するコストタイプを選択する方法を定義します。
【借方に記入されるコストセンタ】 フレーム内のフィールドおよびリンク	借方の経費明細を配賦するコストセンタを選択する方法を定義します。

フィールドまたはリンク	値
[貸方に記入されるコストセンタ] フレーム内のフィールドおよびリンク	貸方の経費明細を配賦するコストセンタを選択する方法を定義します。

既存の経費付替え規則から経費付替えシステムを作成する

既存の規則（ウィザードを使用せずに後で変更することも可能）から経費付替えシステムを作成するには：

- 1 **【経費付替えシステムを作成】**（sysCbkSystemCreate）ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/ユーザのアクション/経費付替えシステムを作成...】**リンク）。
- 2 **【タイトル】**、**【コード】**、**【開始】**、および**【終了】**フィールドに入力します。
- 3 有効、無効を問わず既存のすべての経費付替え規則の一覧が表示されます。次に、1つまたは複数の既存の経費付替え規則を選択して、新しい経費付替えシステムに複製および関連付けることができます（**【規則を追加】**ボタン）。リストから規則を削除するには、**【規則を削除】**ボタンをクリックします。



注意:

同じ規則を複数回追加することもできます。この場合、異なるコードで生成されます。

- 4 必要に応じて、新しい経費付替え規則のラベルとコードを手動で変更します。
- 5 **【完了】**をクリックします。
- 6 新たに作成された経費付替えシステムの規則の詳細画面が表示されます。必要に応じて、フィールドの値を変更できます。
- 7 すべてのウィンドウを閉じます。
- 8 システムを表示し、経費付替え規則を変更するには、**【経費付替えシステム】**（amCbkSystem）テーブルを開きます（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム】**リンク）。

参照コストセンタとコストタイプを必須フィールドにする

経費付替え規則を作成する場合（▶**経費付替えシステムを作成する [P. 78]**）、配賦先コストセンタ、配賦元コストセンタ、コストタイプを定義します。

経費付替え規則を正常に実行するためには、規則によって参照されるコストセンタとコストタイプを入力する必要があります。

例：情報システム部門がコンピュータインストールを再請求し、再請求額をユーザ部門のコストセンタに請求します。そのため、部門のコストセンタを事前に入力する必要があります。

最も確実な方法は、経費付替え規則によって参照されるコストセンタとコストタイプを必須にすることです。

未解決の経費付替えイベントの処理

- 1 経費付替えシステムを表示します（ナビゲーションバーの【**資産ライフサイクル**／**IT財務管理**／**経費付替え**／**経費付替えシステム**】リンク）。
- 2 検証するシステムの詳細を表示します。
- 3 【**イベント**】タブを選択します。
- 4 リストにイベントがあるか確認します。

ある場合は、システム内の規則がトリガイベントを検出したものの、該当の経費明細を生成できなかったということです。

リスト内の各イベントに対して、次の手順を実行します。

- a イベントの詳細画面を表示します。
- b イベントの詳細を調べて、経費明細を作成できなかった理由を特定します。
レコードの作成、変更、または削除によってイベントが生成されたとき、そのレコードの詳細画面を確認するには：
 - Windowsクライアント：【**元**】ボタンをクリックします。
 - Webクライアント：【**状況依存アクション**】ドロップダウンリストから【**元**】を選択します。
- c 問題が修正された場合：
 - Windowsクライアント：【**再適用**】ボタンをクリックします。
 - Webクライアント：【**状況依存アクション**】ドロップダウンリストから【**再適用**】を選択します。

経費付替え規則のトリガのスケジューリング

経費付替え規則のトリガをスケジュールすることができます。

スケジューラは、経費付替え規則の詳細で定義されます。

スケジューラの実行は、Asset Manager Automated Process Managerによって制御されます。

その結果、Asset Manager Automated Process Managerをサーバ上にインストール、設定、および起動する必要があります。

注意:

Asset Manager Automated Process Managerの前の再起動以降に経費付替え規則をスケジュールした場合、次回Asset Manager Automated Process Managerを再起動すると、スケジュールされたすべての経費付替え規則がトリガされ、関連付けられているすべての経費明細が生成されます。

Asset Manager Automated Process Managerを設定する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。
- 3 [ツール/モジュールの設定]メニューを選択します。
- 4 [定期的経費付替え規則をトリガ] (CbkJTimer)モジュールを選択します。
- 5 『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する/定期的経費付替え規則をトリガ (CbkJTimer)**」のセクションに記載された手順に従って、[定期的経費付替え規則をトリガ]モジュールのオプションに入力します。
- 6 [有効]チェックボックスをオンにします。
- 7 Asset Manager Automated Process Managerによって、経費明細が自動的に付替えされます。

Asset Manager Automated Process Managerをバックグラウンドタスクとして実行する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

経費付替え明細の生成

データベースに接続されたら、Asset Manager Automated Process Managerが[定期的経費付替え規則をトリガ]モジュールで定義した一定間隔でスケジューラをチェックする必要があるかどうかを確認します。

これは、[規則の前の実行] (dtLastExec)フィールドの値とスケジューラを実行する頻度を比較することによって判断されます。

経費付替え規則の実行後、Asset Manager Automated Process Managerでは【規則の前の実行】(dtLastExec)フィールドを使用して実行の日付および時刻が保存されます。

経費付替え規則のスケジューリング

- 1 経費付替えシステムを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム】リンク）。
- 2 経費付替えシステムの詳細画面を表示します。
- 3 【規則】タブを選択します。
- 4 経費付替え規則を追加するか、既存の規則の詳細画面を表示して、次のフィールドとリンクに入力します。

フィールドまたはリンク	値
【全般】タブ	
タイマー (bOnTimer)	はい
【タイマー】タブ	
規則の前の実行 (dtLastExec) 実行日と実行時間	経費付替え規則の作成日付および時刻を残します。 『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章、「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する」のセクションの「Asset Manager Automated Process Manager検証スケジュール」を参照してください。

実用例1 – コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え

はじめに

この実用例は、経費付替えシステムとその規則を作成する方法とそれらの規則を適用する方法について理解できるようにするためのものです。

シナリオ

オフィス「PC1–オフィス1」の「PC1–Pike」氏のために1台のコンピュータをインストールします。

「PC1–Pike」氏は部署「PC1–管理」に所属し、この部署はコストセンタ「PC1–管理」に割り当てられています。

情報システム部は、インストールに対して**100**を請求し、この金額をユーザの部署のコストセンタと「**PC1-ハードウェア移設**」コストタイプに配賦します。

その後、「**PC1-Pike**」氏は異動し、コンピュータをオフィス「**PC1-オフィス2**」に移設しました。

情報システム部は、移設に対して**200**を請求し、この金額をユーザの部署のコストセンタと「**PC1-ハードウェア移設**」コストタイプに配賦します。

実行する手順

属性の作成

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産構成/属性]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (OverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

モデルの作成

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産構成/モデル]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC1 - コンピュータ

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

場所の作成

- 1 場所を表示します（ナビゲーションバーの[組織管理/組織/場所]リンク）。

- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1-オフィス1

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1-オフィス2

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

コストセンタの作成

- 1 コストセンタを表示します（ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストセンタ]** リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC1-情報システム部

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC1-管理

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

コストタイプの作成

- 1 コストタイプを表示します（ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストタイプ]** リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1-ハードウェアの移設

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

部署の作成

- 1 部署を表示します（ナビゲーションバーの **[組織管理/組織/部署]** リンク）。

- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1-管理
[ファイナンス] タブ	
コストセンタ (CostCenter)	PC1-管理

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

従業員の作成

- 1 従業員を表示します（ナビゲーションバーの [組織管理/組織/従業員] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1-Pike
部署 (Parent)	PC1-管理

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

購入済みコンピュータに対するクエリフィルタの作成

- 1 クエリを表示します（ナビゲーションバーの [管理/クエリ] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1-管理部署コンピュータ
テーブル (TableName)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	(User.Parent.FullName = '/PC1 - Administration/') AND (Model.Nature.seOverflowTbl = 1)

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替えシステムの作成

- 1 経費付替えシステムを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC1-コンピュータの移設

- 3 入力内容を確定します（[作成] ボタン）。
- 4 [規則] タブを選択します。
- 5 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC1-コンピュータのインストール
規則適用 (bEnabled)	はい
手動承認 (bManual)	いいえ
[全般] タブ	
挿入 (bOnInsert)	はい
コンテキスト (Context)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
フィルタ (Query)	PC1-管理部署コンピュータ
基準金額 (seAmountRule)	定額
定額 (mFixedAmount)	100
[コストタイプ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストタイプ)(CostCategory)	PC1-ハードウェアの移設
[借方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	データベースで選択
ターゲットコストセンタ (TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter

注意:

この値を入力できます。

Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。

別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。

[貸方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1-情報システム部

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC1-場所の変更
規則適用 (bEnabled)	はい
手動承認 (bManual)	いいえ
[全般] タブ	
更新 (bOnUpdate)	はい
コンテキスト (Context)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
フィルタ (Query)	PC1-管理部署コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
フィールド (EvtField)	Location
	注意: この値を入力できます。 Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。 別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。
基準金額 (seAmountRule)	定額
定額 (mFixedAmount)	200
【コストタイプ】 フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストタイプ)(CostCategory)	PC1-ハードウェアの移設
【借方に記入されるコストセンタ】 フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	データベースで選択
ターゲットコストセンタ (TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter
	注意: この値を入力できます。 Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。 別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。
【貸方に記入されるコストセンタ】 フレーム	
計算規則 (seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1-情報システム部

6 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

コンピュータの作成

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - コンピュータ
コード (Code)	PC1-001
【全般】 タブ	
割り当て (seAssignment)	使用中
ユーザ (User)	PC1-Pike
場所 (Location)	/PC1-オフィス1/

フィールドまたはリンク	値
[取得] タブ、 [価格と条件] サブタブ	
購入価格 (mPrice)	2000
[取得] タブ、 [調達] サブタブ	
取得方法 (seAcquMethod)	購入
[資産] タブ	
資産タグ (AssetTag)	PC1-001

- 3 レコードの作成を確定します (Windowsクライアントでは [作成] ボタン、Webクライアントでは [保存] ボタン)。
- 4 コストセンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストセンタ] リンク)。
- 5 コストセンタ「PC1 - 管理」の詳細画面を表示します。
- 6 [経費] タブを選択します。
- 7 経費明細「PC1 - コンピュータのインストール : PC1 - コンピュータ (PC1-001 : PC1-001)」の詳細画面を確認します。
この経費明細は、インストールコストをサービスを受けた部署に配賦します。
- 8 経費明細の詳細画面を閉じます。
- 9 コストセンタのリストを表示します。
- 10 コストセンタPC1 - 情報システム部の詳細画面を表示します。
- 11 [経費] タブを選択します。
- 12 経費明細「PC1 - コンピュータのインストール : PC1 - コンピュータ (PC1-001 : PC1-001)」の詳細画面を確認します。
この経費明細は、インストールコストをサービスを提供した部署に払い戻します。
- 13 Windowsクライアント : 経費明細の詳細画面とコストセンタのリストを閉じますが、ポートフォリオ品目の詳細画面は表示したままにします。

コンピュータの場所の変更

- 1 ポートフォリオ品目「PC1-001」を表示します
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
場所 (Location)	/PC1-オフィス2/-

- 3 レコードの変更を確定します (Windowsクライアントでは [変更] ボタン、Webクライアントでは [保存] ボタン)。

- 4 コストセンタを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/IT財務管理/コストトラッキング/コストセンタ]リンク）。
- 5 コストセンタ「PC1 - 管理」の詳細画面を表示します。
- 6 [経費] タブを選択します。
- 7 経費明細「PC1 - 場所の変更：PC1 - コンピュータ (PC1-001 : PC1-001)」の詳細画面を確認します。
この経費明細は、場所の変更コストをサービスを受けた部署に配賦します。
- 8 経費明細の詳細画面を閉じます。
- 9 コストセンタのリストを表示します。
- 10 コストセンタPC1 - 情報システム部の詳細画面を表示します。
- 11 [経費] タブを選択します。
- 12 経費明細「PC1 - 場所の変更：PC1 - コンピュータ (PC1-001 : PC1-001)」の詳細画面を確認します。
この経費明細は、場所の変更コストをサービスを提供した部署に払い戻します。
- 13 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

実用例2－経費付替えの分割



警告:

この実用例はWindowsクライアントでのみ実行できます。

はじめに

この実用例は、複数のコストセンタに経費付替えを分割する方法を説明するためのものです。

前提条件

実用例実用例1－コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え [P. 82] を完了している必要があります。

シナリオ

情報システム部が除却に対して**300**を請求し、この金額の**70%**をコストセンタ「PC2－在庫」に**30%**をコストセンタ「PC2－会計」に配賦し、「PC1－ハードウェアの移設」コストタイプに配賦します。

実行する手順

コストセンタを作成する

- 1 コストセンタを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/**IT財務管理**/コストトラッキング/コストセンタ] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC2-在庫

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC2-会計

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

分割処理規則の作成

- 1 分割処理規則を表示し（[管理/画面一覧/分割処理規則 (**amCbKSplitRule**)]）、[画面セット] 列が**Full**の明細を選択します。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC2-除却

- 3 入力内容を確定します（[作成] ボタン）。
- 4 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、明細を追加します（[+] ボタン）。

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2-在庫
パーセント (pPercentage)	70%

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2-会計
パーセント (pPercentage)	30%

- 5 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替え規則への規則の追加

- 1 経費付替えシステムを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム] リンク）。
- 2 次のフィールドによって特定される経費付替えシステムの詳細を表示します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC1-コンピュータの移設

- 3 [規則] タブを選択します。
- 4 次の表に指定されたフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC2-コンピュータの除却
規則適用 (bEnabled)	はい
手動承認 (bManual)	いいえ
[全般] タブ	
更新 (bOnUpdate)	はい
コンテキスト (Context)	資産 (amAsset)
フィールド (EvtField)	dDispos

注意:

この値を入力できます。

Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。

別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。

基準金額 (seAmountRule)	定額
定額 (mFixedAmount)	300
[コストタイプ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストタイプ)(CostCategory)	PC1-ハードウェアの移設
[借方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	分割処理
分割規則 (SplitRule)	PC2-除却
[貸方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1-情報システム部

- 5 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

コンピュータの除却

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産] リンク）。

- 2 資産「**PC1-001**」の詳細を表示します。
- 3 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
日付 (dDispos)	グラフィックカレンダーを使って次の日付を選択します。 2011年9月21日

- 4 レコードの作成を検証します([変更] ボタン)。
- 5 [コスト] タブを選択します。
- 6 経費付替え規則「**PC2-コンピュータの除却**」によって作成された3つの経費明細(1つの貸方と2つの借方)がリストに表示されます。
これらの経費明細の詳細を確認します。
- 7 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

実用例3-スケジューリングされた経費付替え規則のトリガ実行

はじめに

この実用例は、スケジューラによる経費付替えをトリガ実行する方法を説明するためのものです。

前提条件

実用例実用例1-コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え [P. 82] を完了している必要があります。

シナリオ

情報システム部が管理部署コンピュータのサポートに対して購入価格の**10%**を請求し、ユーザの部署と「**PC1-サポート**」コストタイプに再請求額を配賦します。

実行する手順

コストタイプの作成

- 1 コストタイプを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストタイプ] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3-サポート

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替え規則への規則の追加

- 1 経費付替えシステムを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/経費付替え/経費付替えシステム] リンク）。
- 2 次のフィールドによって特定される経費付替えシステムの詳細を表示します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC1-コンピュータの移設

- 3 [規則] タブを選択します。
- 4 次の表に指定されたフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (Name)	PC3-サポート
規則適用 (bEnabled)	はい
手動承認 (bManual)	いいえ
[全般] タブ	
タイマー (bOnTimer)	はい
コンテキスト (Context)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
フィルタ (Query)	PC1-管理部署コンピュータ
基準金額 (seAmountRule)	フィールド
選択フィールド	Asset.mPrice

注意:

この値を入力できます。

Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。

別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。

フィールドまたはリンク	値
係数 (dMarkupCoef)	0.1
固定マージン (mFixedMarkup)	100
請求されるオブジェクト (ChargedRecord)	User.Parent

注意:

この値を入力できます。
Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。
別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。

[コストタイプ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストタイプ)(CostCategory)	PC1-ハードウェアの移設
[借方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seCostCatRule)	データベースで選択
ターゲットコストセンタ (TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter

注意:

この値を入力できます。
Asset Managerによって入力項目に自動的に期間が追加されます。
別のフィールドまたはリンクを有効にする前に、期間を削除する必要があります。

[貸方に記入されるコストセンタ] フレーム	
計算規則 (seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1-情報システム部
[タイマー] タブ	
規則の前回の実行 (dtLastExec)	経費付替え規則の作成日付および時刻を残します。
日	日付指定
日	実用例を実施する日
月	実用例を実施する月
年	実用例を実施する年
実行時間	リストデータ
[リストデータ] の右側のフィールド	コンピュータによって表示される時刻。

例: **19:33**

- 5 経費付替え規則の詳細を開けたままにします。

Asset Manager Automated Process Managerの実行

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 Asset Managerによって接続先データベースに接続します。
- 3 起動ウィンドウを表示します([アクション/起動]メニュー)。
- 4 [定期的経費付替え規則をトリガ] (Cbktimer)モジュールを選択します。

- 5 モジュールをトリガします(**[OK]**)。
- 6 **Asset Manager**に戻ります。
- 7 経費付替え規則の詳細「**PC3-サポート**」が正しく表示されていることを確認します。
- 8 **[タイマー]** タブを選択します。
- 9 **[規則の前回の実行]** (dtLastExec) フィールドを確認します。このフィールドには、**[定期的経費付替え規則をトリガ]** モジュールの**Asset Manager Automated Process Manager**によるトリガの日付および時間が設定されます。
- 10 **Windows**クライアント：すべてのウィンドウを閉じます。
- 11 従業員と部署を表示します (ナビゲーションバーの**[組織管理/組織/従業員]** リンク)。
- 12 次のレコードを選択します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1-管理

- 13 **[コスト]** タブを選択します。
- 14 経費付替え規則「**PC3-サポート**」によって自動的に作成された2つの経費明細(貸方と借方)がリストに表示されます。
これらの経費明細の詳細を確認します。
- 15 **Windows**クライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

7 用語解説

経費

会計年度

予算に関連する時間区分。

会計年度を、複数期間の集まり単位で区切ることができます。期間の集まりは期間区分に相当します。

例

2003年会計年度

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

会計年度 (amFinancialYear)

期間区分

期間区分は、会計年度を複数の期間の集まり単位で分割する方法です。

同じ会計年度用に、複数の期間区分が存在することもあります（上半期／下半期、四半期ごと、など）。

期間区分は予算分類と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。

予算を期間区分に関連付けることにより、予算を間接的に会計年度に関連付けることとなります。

例

- 2011年会計年度 - 6ヵ月ごとの期間区分
- 2011年会計年度 - 3ヶ月ごとの期間区分

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

期間区分 (amFYDivision)

期間

期間区分の一部を成す1時間区分

期間区分の、ある期間の後に別の期間が開始するようになっており、期間が重複することはありません。

期間区分の複数の期間全体をまとめると、1会計年度になります。

例

2011年第1四半期

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

期間 (amPeriod)

予算分類

予算分類／予算カテゴリ／コストタイプの階層構造の中で最も大きな分類単位

予算分類は予算カテゴリに区分されます。

予算分類は期間区分と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。

例

「出張」予算分類は、以下の予算カテゴリに区分されます。

- 国内出張
- 海外出張

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

予算分類 (amBudgClass)

予算カテゴリ

予算分類／予算カテゴリ／コストタイプの階層構造の中で中間の分類単位
予算カテゴリはコストタイプに区分されます。

予算カテゴリは、コストタイプよりも大きな単位で経費内容を分類します。

例

「国内出張」予算カテゴリは、以下のコストタイプに区分されます。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

予算カテゴリ (amBudgetCategory)

コストタイプ

予算分類／予算カテゴリ／コストタイプの階層構造の中で最小の分類単位
コストタイプは予算カテゴリに区分されます。

コストタイプは、経費を分類するために使用されます。

経費明細をコストタイプに関連付けることができます。これにより、経費の内容を管理できるようになります。

例

次のコストタイプは、予算カテゴリ「国内出張」内にまとめられています。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

コストタイプ (amCostCategory)

予算

予算では収入と支出を以下の要素の組み合わせで区分して管理します。

- 期間区分 (例えば1財政年度に当たります。)
これにより予算の会計年度を定義できます。
- 予算分類

予算は予算センタ内で作成されます。

例

- 2011年出張
- 2011年機材購入

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

予算 (amBudget)

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されま

す。
予算管理を実行する場合、各コストセンタは予算センタに属する必要があります。

例

- 情報システム部
- 東京本社営業

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

コストセンタ (amCostCenter)

予算センタ

予算センタは予算とコストセンタから構成されます。

予算センタの範囲は、ある期間の特定の内容の経費によっては限定されません。
特定の期間の特定の内容の経費に関連付けられるのは予算です。

予算センタを使用すると、コストセンタのセットに対して経費を計画およびトラッキングすることができます。

例

研究開発予算センタには以下の9つの予算があります。

2004年出張	2004年機材購入	2004年研修
2005年出張	2005年機材購入	2005年研修
2006年出張	2006年機材購入	2006年研修

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

予算センタ (amBudgCenter)

経費明細

経費の完全な詳細（貸方、借方、日付、税金など）

例

以下の要素をもとに経費明細が作成されます。

- 購入
- 作業指示
- 経費付替え
- 研修
- 賃貸料

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
経費明細（amExpenseLine）

通貨

金額値の表記に使用される通貨。

例

- ユーロ
- ドル

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
通貨（amCurrency）

為替レート

2通貨間の為替レート。

為替レートは、金額値を複数の通貨に換算する際に使用されます。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
為替レート（amCurRate）

減価償却

減価償却

資産の減価償却では、資産の価値の減少を費用として算入します。

Asset Managerでは固定資産の経理上の減価償却を推算できます。

これは見積り算定に過ぎません。**Asset Manager**は、法律上の目的で使用される情報を含む会計ソフトウェアの代用は果たしません。

しかし、**Asset Manager**データベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、**Asset Manager**を使用する資産管理者のほうが、固定資産の状況をより正確に把握することができるからです。

Asset Managerでは以下の内容を定義または計算できます。

- 減価償却方法（定額法、定率法、耐用年数）
- 減価償却基準
- 減価償却金額
- 残存価額

例

- 定額法による減価償却
- 定率法による減価償却

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

- 資産（amAsset）
- 固定資産（amFixedAsset）

固定資産

企業が使用する高価な資産を指します。固定資産は、減価償却の対象となり得ます。

Asset Managerは固定資産を記録しますが、会計ソフトウェアの代用は果たしません。

Asset Managerデータベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、**Asset Manager**を使用する資産管理者のほうが、固定資産の状況をより正確に把握することができるからです。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

- 固定資産（amFixedAsset）

税金

税区分

同一の税率が適用される税区域を指します。

例

多くの場合、税区分は地理上の区分と同一です。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
税区分 (amTaxJuris)

税金

国家や地方自治体が一定の出費から徴収する金額。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

- 資産の賃貸料 (amAssetRent)
- 契約賃貸料 (amCntrRent)
- 発注明細 (amPOrdLine)
- 請求明細 (amInvoiceLine)
- 依頼明細 (amReqLine)
- 経費明細 (amExpenseLine)
- 資産 (amAsset)
- 調整項目 (amAdjustment)
- 契約 (amContract)
- サプライヤの請求書 (amInvoice)
- 発注 (amOrder)
- 依頼 (amRequest)
- 研修 (amTraining)
- 作業指示 (amWorkOrder)

税率

ある税区分の税金の計算に使用されるパーセンテージ。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
税率 (amTaxRate)

税金の計算式

税金金額を計算するために使用されるスクリプト。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
税金の計算式 (amTaxFormula)

TCO

TCO

Total Cost of Ownershipは、設備/備品（一般的にコンピュータ）の所有にかかる年間の総コストを指します。

TCOにはハードやソフトウェアの購入価格、メンテナンス費、アップグレードの費用、またコンピュータの管理に必要な人件費や設備費（ホットライン、ヘルプデスク、作業指示、アシスタントなど）が含まれます。

経費付替え

経費付替え

配賦元コストセンタから配賦先コストセンタに、経費を再び配賦することを指します。

例

- メンテナンスコストの経費付替え

経費付替えシステム

経費付替え明細の生成を自動化する経費付替え規則の集合。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
経費付替えシステム (amCbkSystem)

経費付替え規則

経費付替え明細を生成する以下のパラメータの集合

- トリガ条件
- 配賦元コストセンタと配賦先コストセンタ
- 経費付替え金額の計算方法

経費付替えシステムが経費付替え規則を導入します。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
経費付替え規則 (amCbkJRule)

経費付替えスクリプト

経費付替え明細の金額を計算するために経費付替え規則が使用するスクリプト。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
経費付替えスクリプト (amCbkJScript)

経費付替えイベント

経費付替え規則が自動的に発生させる経費付替えの原因。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
経費付替えイベント (amCbkJStoredEvent)

分割処理

1つの経費明細を、複数のコストセンタに分割して配分することを指します。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
コストセンタの分割処理 (amCCSplit)

分割処理規則

分割処理規則は経費付替え規則内で使用されています。分割処理規則は、複数のコストセンタ間で経費を分割配分する方法（どのコストセンタにどのパーセンテージを割り当てるか）を定義します。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
分割処理規則 (amCbkJSplitRule)

索引

- インストールするモジュール, 61
- コスト
 - (参考 TCO)
 - (参考 コストセンタ)
- コストセンタ
 - (参考 分割処理)
 - はじめに, 23
 - 定義, 100
 - 外部アプリケーションとの関連付け, 32
- コストタイプ
 - はじめに, 19, 19
 - 定義, 99
- データベース
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 62
 - 新規データベース, 61
 - 準備, 61
- ライセンス, 61
- レート (参考 為替レート)
- 分割処理
 - (参考 分割処理規則)
 - コストセンタ - 削除, 37
 - 定義, 105
 - 概要, 34
 - 金額 - 変更, 36
 - 注意事項, 36
 - 自動化, 35
 - 計算, 36
 - 詳細, 36
- 分割処理のステータス (フィールド), 37
- 分割処理規則, 105
- 固定資産, 39-41
 - 定義, 102
 - 会計ソフトウェアとの関連付け, 39
 - 詳細, 40
- 会計年度
 - はじめに, 21
 - 定義, 97
- 金額 (参考 金額値)
- 金額フィールド, 15
- 金額値, 11-18
 - (参考 通貨)
- 期間
 - はじめに, 19
 - 定義, 98
- 期間区分
 - はじめに, 21
 - 定義, 97
- 前提条件, 61
- 税金, 43-57

- (参考 税区分)
- アプリケーションのドメイン, 43
- 定義, 103
- 概念, 44
- 税区分, 49
- 原価計算の実行, 48
- 場所 - リンク, 49
- 実用例, 46
- 調達, 55
- 賃貸料, 51, 49
 - 固定税金, 51
 - 率 - 変更, 55
 - 税金の計算式, 51
- 税金の計算式
 - はじめに, 46
 - 定義, 104
- 税率
 - はじめに, 45
 - 定義, 103
- 税率のタイプ, 45
- 税区分
 - はじめに, 44
 - 定義, 103
 - 税金, 49
- 通貨, 11
 - デフォルトの通貨, 12
 - ユーロ, 12
 - 定義, 101
 - 基本通貨, 12
 - 使用前の準備, 12
 - 制限, 18
- 予算, 24
 - はじめに, 19
 - インプリメンテーション, 24
 - トラッキング, 29
 - 定義, 99
 - 実用例, 25
- 予算カテゴリ
 - はじめに, 19
 - 定義, 99
- 予算センタ
 - はじめに, 21
 - 定義, 100
- 予算分類
 - はじめに, 20
- 定義, 98
- 場所 - 税金, 49
- 変換
 - (参考 換算額)
- 専門分野データ, 62, 61
- 換算通貨 (メニュー), 15
- 換算額
 - (参考 変換)
- 減価償却
 - (参考 固定資産)
- 為替レート, 13
 - データの入力, 13
 - ユーロ, 14
 - 定義, 101
 - 逆為替レート, 13
 - 推奨事項, 14
- 経費, 19-38
 - (参考 予算)
 - (参考 経費明細)
 - 概要, 19
- 経費付替え
 - (参考 経費付替えシステム)
 - 定義, 104
 - 概要, 77
 - 前提条件, 77
 - 未解決のイベント, 80
 - 実用例, 82
- 経費付替えイベント, 105
- 経費付替えシステム, 104
 - 作成, 78
 - 既存の規則から, 79
- 経費付替えスクリプト, 105
- 経費付替え規則
 - プログラミング, 80
 - 定義, 104
 - 作成, 78
- 経費明細, 32
 - Asset Manager Automated Process Managerによる自動計算, 34
 - 定義, 101
 - 分割処理, 34
 - 作成, 33
 - 変更, 34
 - 詳細, 33
- 調達 - 税金, 55

賃貸料 - 税金, 51

A

Asset Manager Application Designer

専門分野データ - インポート

既存のデータベース, 62

新規データベース, 61

T

TCO

定義, 104

含まれているコスト, 59

計算, 65

TCO計算を変更する, 70

ビジネスサービスのTCO, 67

モデルのTCO, 69

ワークフロー, 71

資産のTCO, 65

Total Cost of Ownership (参考 TCO)

